客入れの最後はスピッツの「君が思い出になる前に」。
スポットが絞られた状態で明転。
台所で家事？をしている彩乃。
冬服にエプロンをしている。
炊事場で洗い物をしている音が流れている。
水道の蛇口を閉める音。

彩乃　本日はご来場いただきありがとうございます。今日は、ほんの少しだけ…といってもまあ、何時間かはありますが…私の話、聞いてもらっていいですか？

前に出てくる彩乃。

彩乃　私、特に面白い話は持ってないんですけど、うちの家族…ちょっと変わってて…何その話、作り話？って言われて、面白い話でもないのに、面白がられたりするんですけど、当の本人は笑い話じゃないっての！！…って感じで…あ、そうだ逆に聞きますけど、父親がすごく情けなかったらどうします？靴下履くのにもすぐこけて、謝るくせに成長しなくて、**男らしさの欠片も無い**…あ、じゃあじゃあ…姉がすげー小賢しかったらどうします？無駄なところまでむかつく言い方してきたりして、こっちがキレたら、あっちは頭がいいから、いつの間にか言いくるめられたり…あー今思い出してもむかつく！！…こんな家族の話する度に「でもその話彩乃んちっぽーい」。あ、彩乃って私の名前です。でもその言葉って…ちっとも嬉しくないんですよーうわー！！

地を這いつくばる彩乃。
開演ブザーの音。

彩乃　はっ！この音は…もう開演という事か…じゃ、じゃあ最後に…一番信じられないかもしれないんですけど…生まれたばかりの弟が言葉を喋ったらどうします？おはようとか、こんにちはとか、過払い金請求とか。…時間も無いので、とりあえず私はここで…というわけでそういう話を今日はします。どうぞ、笑ってやってください…

開演ブザーが彩乃を急かす。

彩乃　ああ、すいません…今日の話は…ちょっと…いや、だいぶ変わった、私の家族の話です！！

マリオオデッセイのオープニングに似たテーマがかかる。
エプロン姿の彩乃が台所を上手から抜ける。
下手から父親が出てきて、トースターにパンをセット。
既にスーツ姿。いったん上手に消えて、新聞を取ってくる。
まもなくパンが飛び出してくる。マーガリンを塗り始める。
続いて下手から夏葵が眠そうに登場し、父親からパンを一枚奪い取る。
が、しかしすぐに睡眠。
父親はネクタイを確認。
出ていこうとする夏制服姿の彩乃が”下手”から出てくる。
音楽の音量が少し下がる。

彩乃　あれ？お父さんもう仕事？
父親　ああうん。今日は少し遠くまで出ないといけないからね。早いんだ。
彩乃　なるほど。
父親　じゃあ行ってくるよ。
彩乃　いってらっしゃい。

再び少し音量が上がる。
夏葵の父親から取り上げたが食べてないパンをこっそり取る彩乃。
音量が下がる。

彩乃　お姉ちゃん！
夏葵　え、ふぁい？
彩乃　私、もう行ってくるから。
夏葵　うぃ～頑張って…
彩乃　お姉ちゃんこそ！大学遅れないようにね！

再び音楽が大きくなり、舞台の照明が落ちる。
上手端の照明が上がり、ウィークリーニュース部。
再び音量が下がる。

八代　おい、小川。もしそれが本当なら、筑紫西高校ウィークリーニュース部、始まって以来のスクープだぞ。

小川　ええ。事実です。
八代　おお！やりました！有佐さん！

有佐に触れようとする八代だが、さっとかわす。

八代　あ、ああ…！おい、小川！すぐに！直撃取材だ！！
小川　直撃取材？
八代　記事は足で稼げ！ですよね、有佐さん！
有佐　知らないけど、あまり変な取材しないのよ、迷惑がかかるから。
八代　勿論ですよ！よし、行くぞ、小川！！

八代と小川が上手側へと走り出していく。
上手端の照明が落ちる。下手端の照明が上がる。
そこには彩乃と光莉。

彩乃　妊娠―！！？

彩乃を抑える光莉。

光莉　ちょ…ちょっと…
彩乃　ああ、ごめん！

周りに頭を下げる光莉。

彩乃　それは…本当なの…？…**妊娠って。**
光莉　…うん。
彩乃　え…そんなまさか。お腹の中に…
光莉　…それで、彩乃ちゃん。しばらく匿ってほしいの。
彩乃　か、匿う？
光莉　うん。
彩乃　…まあウチは大丈夫だろうけど…

光莉、小さく頷く。

彩乃　あ、でも…ウチに来るなら…その前にひとつ言っておかなきゃいけないことがあって…

光莉　言っておかなきゃいけないこと？

ゆっくりと暗転する舞台。
音楽のみ残る。
そして音楽がゆっくりとフェードアウト。
舞台が明転する。
赤さん（乳児）と夏葵がコロッケを見つめている。

二人　うーん…
夏葵　おっそいなあ彩乃…一体どこほっつき歩いてるんだか…

食卓に１つだけの残るコロッケ。
目を遣る夏葵。

夏葵　さすがにこれ以上食うと言い訳効かないよな…普段食卓を囲むのは３人。作ったコロッケの数は６個。本来２つずつ。しかし今日は父親が残業でご飯がいらない。本来３個ずつ。そして私は５個コロッケを食べた。そして残る１つを食べようとしている。…キャベツをおかずにご飯は食べないもんな…
赤さ　…どうするんですか？

じっとコロッケを見つめる夏葵。

夏葵　うわ。どうしよう……もう食べちゃうか。うんうん。お姉ちゃんの特権。あいつは今日はベジタリアン。
赤さ　いいんですか？
夏葵　いいのいいの。私のほうが年上なんだから。
赤さ　はあ。

コロッケを食す夏葵。
そして欠伸を一つ。

赤さ　寝不足ですか？
夏葵　まあね～。昨日もレポート遅くまで書いてたし、お腹いっぱいだし。どうしても眠く…

電話がかかってくる夏葵。

夏葵　彩乃？…あ、違うわ。

携帯電話に出る夏葵。

夏葵　もしもし。ケイコ？どしたの。え？医学英語のレポート？もう出したけど…

立ち上がり、下手の自分の部屋へと向かう夏葵。

夏葵　あ、そう。原本が部屋にあるから、撮って送るわ。うん。全然参考にしていいけど。

家の鍵が開く音。

光莉と彩乃が何やら話しながら入ってくる。

うしろ向きの彩乃、落ちているポエムで盛大に滑る。

光莉　だ、大丈夫！？

彩乃　イテテテ…あ、これまただ。お姉ちゃんのポエム。毎回くだらないこと書いて…ここに飾って…

仏壇に置きなおす彩乃。

彩乃　まあ一応、うちのお姉ちゃん、医療系だから、いろいろと聞いてもらえるように手筈を…

ポエムを読む、彩乃。赤さんに気付く光莉。

彩乃　『何度転んだっていいじゃない。人なんだもの』

少し間をおいて、上手にポエムを投げ捨てる。

光莉　ありがとう。あと…

彩乃　あ、一旦ストップ。…あそこに見て。

光莉　あ、赤ちゃん？

彩乃　あの子が、さっき伝えた、喋る…赤さん、あいさつ。
赤さ　どうもはじめまして。
光莉　…声渋っ！
彩乃　ね、驚くでしょ。最初は。喋る赤ちゃんなんて…
光莉　いや、喋ることじゃなくて…渋い所が…声変わり終わったの？
彩乃　もう、まだ赤ちゃんだよ？終わるわけないじゃーん。

軽く光莉を冗談でたたく彩乃。

光莉　いや、そんなんじゃなくてさ！

舞台上のメンバーは全員止まる。赤さんにスポットライト。

ナレ　彼の名前は北川丹人。通称赤さん。赤子ながら高い頭脳を持っている。また、皆様には見た目が完全な大学生に見えるかもしれないが、演出の都合上、これは赤子なのである…赤子なのである！

赤さ　カバの汗はピンク色。
光莉　え？
赤さ　カバは細菌の増殖を抑えるため、そして日焼けからその身を守るため、粘液を発生させます。それがピンク色なのです。ですから、正確に言うと、汗がピンク色ではなく、粘液がピンク色なんですな。
光莉　え、なんで雑学…
彩乃　私も知らない。いつもやってる。
夏葵　うん。それを参考にして。分かったばいばーい。

夏葵、電話を切る。そして驚いた表情をしたのち。

夏葵　ああ、いやそのこの子はあれです。私たちが作り出したロボットで、名前が…あの…解剖だけは！解剖だけは勘弁してやってくだせえ！！
彩乃　お姉ちゃん。…光莉ちゃん。
夏葵　え？ああ、さっきLINEで…
彩乃　そうさっきLINEで。
夏葵　なーんだ、驚かさないでよね。**てっきりFBIとかBMIかと**…じゃあ、もう説明はしてあんのね。
彩乃　説明はしてるし、それに大体この子が光莉ちゃんって分かるでしょ。来るって連絡してんだから。

夏葵、大きな欠伸を一つ。

夏葵　ああ、もうこんな時間か。はい、赤さん、寝ましょうね。
赤さ　え、なんですか？
夏葵　寝るよ。早く。
赤さ　寝る？
夏葵　赤子は寝るのが仕事。寝るって言ってるの。
赤さ　赤子なのでよくわかりませんね…。
夏葵　…ミルクに辛子入れるぞてめえ。
赤さ　寝ましょう。

夏葵と赤さん、下手へ。

彩乃　あ、ごめん。全然何も用意してなかったね。
光莉　いや全然、大丈夫だよ？あれだったら、自分で用意…
彩乃　気にしないで。一応家事はいつもやってるから。

台所へ向かう彩乃。
レモンティーを 2 杯作り始める。

彩乃　光莉ちゃん、レモンティー飲める？
光莉　あ、うん。大丈夫。
彩乃　よかった。いやあ、昔お母さんが買い溜めたやつがあるんだけど、うちの家、私しか飲まないからさ。余って余って…
光莉　ああ。
彩乃　お父さんもお姉ちゃんも甘いお茶がダメなんだと。案外繊細で…大丈夫そう？うちのお姉ちゃんで。
光莉　え？
彩乃　いや、相談。
光莉　ああ、それは全然。
彩乃　それならよかった。あの人の性格、合わない人、本当に合わないから。
光莉　そうかな？そんな感じは…
彩乃　ほら、変に頭いいからさ。ずっと話してるとだんだん出てくると思うけど…
光莉　はい、レモンティー。

彩乃、光莉にレモンティーを渡す。
自分の分も置くと、一旦台所に戻る。

光莉　ありがとう…ああ、美味しい。
彩乃　でしょ？特別いいやつじゃないから、ちょっと不安だったけど。
光莉　え？
彩乃　あ…いや、なんでもない。

夏葵、戻ってくる。

夏葵　あの子すぐ寝るからええわ～

ダイニングテーブルに座る夏葵。レモンティーを飲もうとする。

夏葵　なんだ、レモンティーか。ココア用意してよ。コッコーア。
彩乃　自分で用意なさってください。こちらにございますので。
夏葵　ケチ。

夏葵、光莉を確認すると、少し間を空けて。

夏葵　驚いた？
光莉　え、ああ…あの子…
夏葵　赤さんでいいよ。
光莉　ああ…驚きました。
夏葵　だよね～言葉を喋るなんてね～
光莉　いやそこは事前に聞いてたんですけど、声が…
夏葵　私たちも最初は驚いたよ、まるで漫画だもんね。

どこからか枕を取り出し、ダイニングテーブルの上に置く夏葵。
寝ようとしているの丸わかり。光莉も戸惑う。

夏葵　でも、今じゃ大切な家族だから、そこんとこよろしく。
光莉　あ、はい。
夏葵　というわけで…

寝る夏葵。

彩乃、ちょうど片づけを終え、近づく。

彩乃　あ、ちょお姉ちゃん！話の途中！それに悩み聞いてあげるって言ってたじゃん！

夏葵　うーん…もう食べられな…あ、スイーツですか？スイーツだったら少々…

彩乃　起きんかボケ！

夏葵から枕を抜き取る彩乃。

夏葵　イテテテテ…

光莉　だ、大丈夫ですか？

彩乃　約束は守りましょうね。お姉さん。

光莉　あ、いや眠いんだったらそんな…眠くない時でも。

夏葵　ああ、大丈夫大丈夫。私、基本眠い人だから。眠くない時待ってたら、半年はかかるから。

光莉　ああ…なるほど。

夏葵　それでは…よっこいしょ。

ゆっくり起き上がる夏葵。

彩乃　じゃあ光莉ちゃん。話せる範囲でいいから。

何度か話し出そうとする光莉だが、だいぶ手間取る。
それから下のセリフへ。

光莉　はい…あのですね…私、色々すごく未熟でして…

夏葵　うんうん。

光莉　本来そういうことってしちゃいけないことってわかりつつも…

夏葵　うんうん。

光莉　知らない男の人と、ホテルで…

夏葵　うんうん。

光莉　私、もうどうしたらいいかわからなくて…！

白目で聞いている夏葵に気づき、彩乃、暴力。

彩乃　おはようございます。

夏葵　衝撃の一撃。完全に目ぇ覚めたわ。
彩乃　何回寝んだ、てめえ。
夏葵　つまり、光莉ちゃんは知らない男と一緒にいたと。
光莉　あ、はい…
夏葵　で、カッとなって殺したと。
彩乃　言ってない！
光莉　殺してないです…
彩乃　知らない男と、ホテルに行ったの！
夏葵　そっか。でもそれは光莉ちゃん、ダメだとわかってたんだよね。
光莉　…はいそれは。
夏葵　光莉ちゃん、私が医学部だから言うわけじゃないけど、命を作るって言うのは、すごく責任のいること。
光莉　…はい。
夏葵　そんなに軽い気持ちじゃダメ。
光莉　…そうです…よね。

夏葵、すごい真面目なトーン。

夏葵　で、…それは…出会い系？
光莉　…え？
彩乃　え、何お姉ちゃん。
夏葵　出会い系で出会った男の人？
彩乃　聞く必要ある？ねえ。
光莉　アプリです。
彩乃　…アプリ！？言わなくていいよ、光莉ちゃん。
夏葵　ア、アプリ!?世の中にはそんなアプリが…私、LINEとTwitterと変なパズルゲームしか知らないから…あの広告で流れてくる…
彩乃　良い良い。もう良い。
夏葵　身元は！？相手の身元は分からないの？それなら少しは…
光莉　…全然、聞いてなかったので…

倒れそうになる夏葵。支える彩乃。

彩乃　ああ…お姉ちゃん…
光莉　だ、大丈夫ですか？
夏葵　う…うう…身元不明の男と…アプリで…こんな可愛らしい子が…

彩乃　ああ、大丈夫大丈夫。お姉ちゃんがキャパオーバーしちゃっただけだから…
夏葵　日本が荒んでいく…
光莉　キャパオーバー？
彩乃　うん。キャパオーバー。たまにあるのよ。ほら、うちのお姉ちゃん、男性と付き合ったりとか、そういう経験一切なくて…告白すらないからね。それでキャパがオーバーしやすくて…**こないだドラマのラブシーンでも…**

夏葵、苦しんでいるが、急に起き上がる。

夏葵　うう…ねえ、彩乃。それ言う必要あった？

からくり人形のような動きをする夏葵。

彩乃　え？
夏葵　いや、彼氏いたことないとかなんとか。
彩乃　いやだって別に…
夏葵　なんか言う必要ないこと、ばらしたよね？
彩乃　いや別に変な意味じゃないし、そういう意図じゃないよ？ただお姉ちゃんが倒れてびっくりしてるから説明したんじゃん。何よ急に怒って。
夏葵　でもそんな２　１にもなって彼氏いないとか言わなくていいじゃん。
彩乃　そんな言い方してないし！
夏葵　したも同然です。途中から光莉ちゃんとの話を盛り上げるエンターテインメントにしてました。
彩乃　なによ、エンターテインメントって。使い方違うでしょ、多分。いいじゃん事実なんだからさー。彼氏いなかったこと。それに別に恥ずかしい事じゃないよ？気にしすぎなんだよお姉ちゃんは…
夏葵　カッチーン。何上から来てんだコラ。何が恥ずかしい事じゃないよ～だ。

変な顔をして、彩乃の真似をする夏葵。

彩乃　そんな顔してません～
夏葵　第一、あんただって彼氏いたこと無いでしょうよ。
彩乃　ありますよ～残念ながら～
夏葵　いつですか？いつですか、教えてください～
彩乃　幼稚園の頃です～

夏葵、少し彩乃に被せるように。

夏葵　幼稚園の頃は含まれません～それを含めてはいけません～

彩乃　幼稚園の頃すらない人に言われなくないですーっ！

夏葵　情けない…

彩乃　情けないのはそっちです～いやほんとごめんね、光莉ちゃん、そっちのけにして…うちの姉ちゃんバ…

光莉、二人に急にみられて少し驚いた様子。
思わず二人とも２度見。

彩乃　…死ねって。

夏葵　そっか。

光莉　いやしてな…！

彩乃　いやこれそっちが悪いよ？

夏葵　なんでよ私のどこが…

彩乃　大体あんたは昔から…

光莉　お、落ち着いてください！彩乃ちゃんも！ね？

一瞬停止する姉妹。
そしてぐるぐると周りを回り始める。

彩乃　光莉ちゃん、じゃあさ。

夏葵　恐ろしい事を聞くけどさ。

彩乃　…どっちが可愛い？

夏葵　私と彩乃。どっちが可愛い？

光莉　え？いや…そんな…

彩乃　いいよ遠慮しなくて。…決めちゃえよ。

なぜかイケボになる彩乃。

夏葵　こんなこと、したくはなかったが…さあ決めよう。

同じくイケボになる夏葵。

光莉　…え？

彩乃　さあ！こっちとこっち！
二人　どっちの方が可愛い？
夏葵　さあ決めて決めて！
彩乃　忖度無しで！ノー忖度で！
夏葵　正直に決めていいよ！正直に！！

光莉、テンションに引く。

彩乃　ただ可愛い方を！
二人　純粋に選んで！
光莉　…え…だったら…

光莉、ゆっくりと夏葵を指さす。

夏葵　え？私？私？

小さく頷く光莉。

光莉　は、はい。
夏葵　よっしゃキターーーー！！」
彩乃　ぴぎゃあああ！
夏葵　夏葵ダイナリ彩乃！！彩乃ショウナリ夏葵！フー！！
彩乃　ど、どうぢで…どうぢで光莉ちゃん…私たち親友じゃ…

泣きじゃくり、光莉に縋りつく彩乃。

光莉　いやあの…
夏葵　はい、彩乃ちゃーん。光莉ちゃんを困らせなーい！

光莉から彩乃を引きはがす夏葵。

夏葵　ありがとねー光莉ちゃん。見る目あるね〜。昔からあるって言われない？
光莉　いやまあ…
夏葵　いやあ嬉しい嬉しい…
光莉　その…
彩乃　ピッピッピッピー！

サッカーの審判の真似をする彩乃。

夏葵　何よ。
彩乃　ただいまのプレイはアンフェアです！
夏葵　アンフェア？
彩乃　レッドカードで退場！！…夏葵選手は自身が年上であるということと、初対面であることを利用して、光莉ちゃんからム・リ・ヤ・リ！自分の方が可愛いとの言葉を引き出しました！
夏葵　なによ！そんな言いがかり！
彩乃　ね！光莉ちゃん！夏葵姉ちゃんは３試合出場停止よね！
夏葵　なんじゃそりゃおい。
光莉　いやその…まあでも、私の判断は…あんまり当てにならないかと…
夏葵　ちょっと光莉ちゃん！
彩乃　よっしゃノーゴール！試合は延長戦にもつれ込みます！
夏葵　チクショウ！そんなの言いがかりよ！…それに！延長戦たってどうすんのよ。互いの事、互いで判断でもするの？
彩乃　そんなのオール自殺点になって終わりじゃん。適切な判断を仰げる人にお願いするの。
夏葵　誰に？
彩乃　それはちょっと…どうしよう。
夏葵　どうしようってあんたねえ…

扉の鍵が開く音。

父親　ただいまー。今帰ったよー

ゆっくりと見つめあう夏葵と彩乃。

二人　あいつだ！

ダッシュで上手へ。

光莉　え…ちょっとお二方とも…

父親を抱えて、もしくは台車に乗せてやってくる二人。

落とされる父親。もしくは父親は滑らされてやってくる。

父親　ぐえっ！…ちょっとな、なに…
彩乃　いや実はお父さんに…
夏葵　お願いしたいことが…
父親　え、なになに？…お金なら無いよ？

父親にグイっと近づく２人。

二人　ねえお父さん！
父親　はい、お父さんです…

かなり戸惑っている様子の父親。

父親　ど、どうしたのかな、二人とも。
夏葵　私と彩乃、どっちが可愛い？
彩乃　私とお姉ちゃん、どっちが可愛い？

目をキラキラさせる二人。父親を囲む。

父親　な、なんだそんなことか…そりゃあお前…

突如、無理して格好をつける父親。

父親　僕は二人のお父さんなんだ。そりゃどっちも同じくらい…可愛いよ。

一瞬空気が止まる。
そしてため息をついて、父親から離れる２人。

父親　え？何？何？
彩乃　そういうんじゃないそういうんじゃ。
夏葵　そういうの今、一番求めてないから。
彩乃　冷めるわー
夏葵　KY。KY。
父親　なんだかお父さん…すごく蔑まれている…
光莉　あのー…

父親　ああ、はい。
光莉　すいませんはじめまして、今日からお世話になる…
父親　光莉ちゃんだよね、光莉ちゃん。あの家族 LINE に送られてきてた！
光莉　今日からよろし…
父親　ああよろしくよろしくよろしく！！…ごめんね、帰ってきていきなり格好悪い所見られて。
光莉　カッコ悪いだなんてそんな…
父親　あ、もしかして…カッコよかった？カッコよく見えた？僕。

お目目キラキラの父親。しかし、光莉はノーコメント。

光莉　…。
父親　わあい、ノーコメントだあ。

夏葵と彩乃は 2 人の世界で会話。

父親　こんなふがいない一家の主で申し訳ない…

光莉に膝をつく父親。

光莉　いや、ちょ、やめてください。お父さん。
彩乃　ポエマーな所とか、夏葵姉、遺伝子直撃してるね。
夏葵　1 対 0 だかんね。
彩乃　はあ？
夏葵　光莉ちゃんからポイントもらったから。
彩乃　だからそれはノーゴールだって！

欠伸する夏葵。
光莉はお父さんを立たせる。

彩乃　ちょっと！聞いてんの？
夏葵　もう眠い。
彩乃　はあ？
夏葵　さっきから言ってるべさ…
父親　光莉ちゃん…って呼んだらいいのかな？
光莉　あ、はい。

父親　じゃあ光莉ちゃん…

夏葵、寝だす。彩乃、だいぶ納得がいかない様子。
何か言ってたりしている。

父親　もうお父さんやお母さんには連絡した？
光莉　あ、はい。一応。
父親　それならよかった。うちとしては一応いつでもいてもらって大丈夫だから。
赤さんの事はなんとなく言ったってLINEがあったけど…
光莉　ああ、聞きました。
父親　そっか、ならよかった。

以降、二つの会話が混ざった状態。
光莉は父親と、彩乃は夏葵と話している。

彩乃　ん？なんだ、このキャベツ。ねえ、お姉ちゃん、何このキャベツ。
夏葵　ん？ええ…あ、やべ。
父親　光莉ちゃんは彩乃と同じクラス？
光莉　同じ1年2組で…
彩乃　あれ…おい姉御。今日食事当番だったよね？
父親　ああ、本当。仲良くしてくれてるみたいで。
光莉　いえいえ…そんな。
夏葵　まあ…そうだけど…
彩乃　明日は冷凍庫にあったコロッケにするって言ってたよね？
夏葵　冷凍庫にあるにはあったんだけど…
父親　彩乃は学校でどんななの？ウチでの彩乃しか見ないからさ。
光莉　彩乃ちゃんですか？…学校ではすごく明るくて、私も今年、入学したとき、
うちの学校、偏差値的なこともあるのか、やっぱり周りにはハッチャけた感じ
の人が多くて、あまり仲良くなれなかったですけど、彩乃ちゃんが話しかけて
くれて。
彩乃　なかったですけど。
夏葵　左様でございますか…
彩乃　いやあ、この微妙に残った衣が気になっててさ。
父親　へぇ～そうなんだね。
光莉　逆にウチだと、彩乃ちゃん、どんな感じなんですか？
夏葵　んーなんでだろうなあ…

彩乃　昨日告げたメニュー、残ったキャベツ…そして衣…
父親　どんな感じって…今見たみたいな感じだよ。僕、完全にケツに敷かれてる。本当にお母さんとそっくりだ。
光莉　お母さんに？
彩乃　夏葵さん、もう嘘はよしましょうや。
父親　ああ。見た目も性格も…まあ性格に関しては近づいて行ってる感じがするけれど…
光莉　近づいて行ってる？
父親　うん。…お母さんが死んでから。
光莉　え…
彩乃　てめえコロッケ食いあがったなー！！
父親　あれ…彩乃から聞いてなかった？このこと。
彩乃　そしてそこの男は重い話いきなりすんなー！
父親　いや、彩乃！何も言ってなかったのか⁉
彩乃　言ってない！！話す機会もない！！
父親　赤さんの事も言ったって言ってたから…
彩乃　もう初対面の子に…
父親　ああ、ごめんごめん。
光莉　すいません、悪い事聞いたみたいで…
彩乃　ああ、大丈夫大丈夫…こっちが勝手に言っただけだから。

光莉、申し訳なさそうな顔に。

彩乃　ほら、すごい空気になったじゃない！
父親　何か別の話した方がいいかな？
彩乃　そうして。
父親　分かった。光莉ちゃん、重い話からちょっと変えよっか…なんかもっと楽しい話…あ、そうだ。光莉ちゃんは、どうしてウチに？
彩乃　うん、話変わってないね。
父親　え？
彩乃　重いまんまだよ。
光莉　いやその…
父親　ああ、どうしてウチに？
彩乃　はいストップ～次女ストップ～。
父親　え？ええ？
彩乃　ちょっとおいで。

父親を追い込み漁する彩乃。

彩乃　ねえ、LINEで伝えたよね？ 家族LINEで。色々ある子が来るって。

父親　そりゃ色々あるとは聞いたけど…

彩乃　その色々を色々あった子に聞いていいわけないじゃん？ わかんないの？ え？

父親　いや、ごめん…でも、色々ってなんだい？

彩乃　なんだよ、なんだよ。

父親　わざわざウチに来るってことは、親御さんに言えないことだろう？…例えばテストの点数が悪かったとか。

彩乃、首を横に振る。

父親　学校で暴力沙汰起こしたとか…

彩乃、首を横に振る。

父親　極端な話だと…お腹の中に子供がいるだとか！

彩乃、固定。

父親　え？ え？

彩乃、固定。

父親　え…その…

光莉に目線を移す父親。

父親　もしかして…妊娠してるの？

ぶん殴られる父親。

スポットが父親に。

「♪Amazing grace」と共にゆっくり倒れていく。

父親　ぱ…ぱぴー…
光莉　お、おう…

赤さん、下手から登場。

赤さ　ほう、妊娠。

彩乃、赤さんの元へ走る。

彩乃　お前は寝らんか！

下手へ投げ飛ばされる赤さん。SE入り。

彩乃　ったく…お父さんのそのデリカシーのない感じ、夏葵姉にそっくり！！…本当に遺伝子直撃してるよ、あんた。

夏葵を見る彩乃。
再び父親に。

彩乃　…男がそれをやったらセクハラなんじゃー！！
父親　す、すいませんでした…

夏葵が起きた様子。

夏葵　ふああ…どうしたの大きな声出して…そんなことしたら、ワッフルの投げ合いでドイツ軍が勝利しちゃうよ…？
彩乃　もういい。お前はもう寝ろ。…ごめん光莉ちゃん。さっきの話の続き、また次でいいかな？
光莉　ああ、全然…
彩乃　だってさ。だから、ほら！ほら！
夏葵　つつくなつつくな。羊じゃねえんだから…

寝グズをしながら、下手へ消える夏葵。
そして彩乃、父親も起こす。

彩乃　いつまで寝てるの。

父親　はっ…なんだかすごく……情けないことをしていたような…
彩乃　早く、寝るんだったら、部屋で。
父親　あ、ああ…風呂は明日でいいか…あ、そうだ。

立ち上がる父親。

父親　彩乃、もう赤さんの事は『しっかりと』説明したのかい？
彩乃　もうとっくに。
父親　驚いてた？
彩乃　いやそんなに。
父親　はぁ～最近の子は呑み込みが早いな…
彩乃　いいから…
父親　にしても妊娠…
彩乃　だっから！
父親　親御さんには、もう伝えたのかい？
光莉　あ、いえまだ。
父親　よかったら、僕から言おうかい？
彩乃　なんで無関係の父さんが言うのよ！帰れ。即座に。部屋に。ほら！ほらほら！
父親　は、はいはい…

下手へと消える父親。
少し間を空けて。

彩乃　…お待たせしました。以上がウチの…家族です。改めて見事に変なのしかいねえ…
光莉　いやそんな…
彩乃　ごめんね、今日中に聞けなくて…あと、父親からのセクハラも。

ダイニングテーブルの上の皿を片付ける彩乃。

光莉　でも、新鮮だった。
彩乃　え？
光莉　いや、彩乃ちゃんがお姉さんや弟の赤さんと話してるの。ほら、私兄弟いないから…
彩乃　ああ、なるほどね…

その後、炊事場を見て辟易とした表情の彩乃。

光莉　どうしたの…？
彩乃　いや食器…洗うの。今日の担当、私なんだけどさ。明日でいいかな…
光莉　あ、よかったら私しようか？
彩乃　え？
光莉　家庭科で習ったレベルでよければ出来るけど…
彩乃　いや…やっぱりいいや。お客さんに申し訳ないし。あ、そうだ光莉ちゃん、部屋言ってなかったね。…そこの手前から２番目の部屋！空き部屋だから。
光莉　ああ、分かった。ありがとう。じゃあ荷物置いてくる。

下手側にはける光莉。

彩乃　布団は…ああ、後でまた言いに行く。
光莉　うん、わかった。

少しうろついた後、再び炊事場に戻る彩乃。

彩乃　…お母さんの代わり…か。

暗転。
何か学校の環境音。
舞台中心”面”が明転。
ウィークリーニュース部の２人が姿を現す。

八代　よし、全員集まったな。
小川　有佐さんがいませんが。
八代　有佐さんは忙しいらしい。火曜日は塾とかなんとかで…
小川　デスク、今日は木曜日です。
八代　…。
小川　デスク、もしかして騙され…
八代　そ、それではウィークリーニュース部の会合を、ここ「邪魔にならない場所」で開催する！
小川　部室は**どうしたんですか？**

八代　俺が中でエッチなビデオ見てたら没収された。
小川　…。
八代　いや、エッチなビデオって言っても、そんなどぎつい奴じゃないぞ？あのあれだ…エッチと言っても、そういう性的なエッチとかいやらしいエッチとかじゃなくて、いやもはやエッチじゃなくて、どちらかと言ったら芸術作品よりの！…エロティシズムの…
小川　デスク、会合を始めましょう。
八代　…というわけで、最新の記事になりそうな事柄！

小川、挙手。

八代　よしじゃあ誰にしよう…
小川　私しかいません、デスク。
八代　分かってるよ。冗談の通じないやつだな。それでは小川君。その記事とは。
小川　はい。ひとつは文化祭の件。実行委員長、並びに副委員長、そして主要な文化部部長への取材は終了しました。
八代　よし、でかした。
小川　そして、もうひとつですが…
八代　おお。
小川　この間、お話ししたとおりの事です。
八代　この間？
小川　…ボケデスクが。
八代　何か言ったか？
小川　いえ別に…この間お話ししました、北川彩乃の実家にいた乳児の話です。
八代　ああ、それか。なんでも見た目は赤子だが…っていう。この間直撃取材しようとした…
小川　はい。直撃取材しようとしたら、デスクが直後に補習の呼び出しを食らったため、急遽中止になった。
八代　国語苦手なんだよ。
小川　ウィークリーニュース部のデスクが。
八代　…（咳払い）それはともかく…知能指数の異常に高い赤子…そんなSFみたいなことを事実として報道すれば…
小川　ウィークリーニュース部の地位は…再び揺るぎないものになります。
八代　文化祭という文化部のランクが決まる祭り。…そんな中、私たちは昨年、吹奏楽部に次ぐ2番目の人気だ。
小川　まあ、あくまでも、昨年の部員がいた時の話ですけど。

八代　ん？また何か言ったか？
小川　いえ、なにも。
八代　そんな中、今年はどうも不思議と記事のキレが無かった。
小川　記者がいません。
八代　そうつまり、去年や一昨年のような！…ビックスクープには恵まれなかった。運がないな…おととしのスクープ言ってみろ！
小川　はい、校長先生が女子トイレの中でうろちょろしてるところを捕まりました。
八代　そして去年！
小川　その校長を捕まえたのが教頭先生だと発覚しました。
八代　で、どうなった！
小川　はい。教頭も思いっきり中に入ったことが発覚し、免職になりました。
八代　そうだな…今年はそんなスクープがない…しかし、そこにまさかだな。
小川　はい。私もまさかでしたよ…私の用があったのは、あくまでも文化祭副実行委員長の彼女でしたから…

夕方のMEが流れる。
ゆっくりと暗転する舞台中央”面”舞台。
電話の着信音。明転する舞台。

彩乃　ああ、もしもしお父さん？…いや、今日午後には帰ってくるんだっけ？ごめん、お昼ごはんなんだけど、ウィークリーニュース部？っていう人たちから所謂取材って言うのかな…受けなきゃいけなくて…うん。それで。…そうだね、食べてきたほうがいいかも。

家のチャイムの鳴る音。

彩乃　あ、来たみたいだから。切るね。はーい。

電話を切る音。そしてもう1度チャイム。
チラリとインターフォンカメラを確認。

彩乃　はいはーい今、行きまーす！

上手側にはける彩乃。

小川　お邪魔します…

彩乃　ああ、どうぞどうぞ。そこに座ってください。

ダイニングテーブルに誘う彩乃。

小川　失礼します…

彩乃も座ろうとするが、何かに気づく。

彩乃　あ、文化祭の事の取材ですよね？

小川　あ、はい。

彩乃　私、自分の部屋に計画表取ってきますね、文化祭の。

小川　ああ、じゃあお願いします。

彩乃　はい！

下手へと駆ける彩乃。

少しして舞台中央の"面"の部分のみスポットが照射。

小川　私の名前は小川桜子。筑紫西高校ウィークリーニュース部の３年生。今日は取材にやってきた。肝心のうちの部は…

上手側"面"にスポット。

八代　よし、我がウィークリーニュース部の今回の特集はそれでいくぞ！

集団　イエッサ！

八代　よ～し、走れ走れ！記事の欠片をその足で、その手でつかむんだー！！

大量の人間が駆けていく音。

小川　**と、デスクを慕った**多くの人材を抱えていたのだが…八代が有佐さんと付き合ってからというもの。

八代　アリサちゃん！これ！

何やら箱を渡す八代。

有佐　…なにこれ。

八代　ほら、僕ら付き合って３か月経つじゃん？その記念と思って…開けてみて。

開けた瞬間、間髪入れずに。

八代　セミの抜け殻！…一番左がミンミンゼミで、真ん中がアブラゼミ。一番右がツクツクボウシで…

箱を閉め、上手へぶん投げる有佐。

八代　アリサちゃーん！！…ひどいでミーンミンミーン！！

上手へ走る八代。

小川　全く使い物にならなくなってしまった。おかげで部員が激減。記事作りも難航…

八代　ひ、ひどいよ…

有佐　そのプレゼント内容の方がよっぽどひどいわよ。

八代　えーじゃあ何なら喜んで…

有佐　何もないわよ。

八代　えーお、俺はどうすればいいんだー！！

有佐　あんた、新聞部でしょ？

八代　ウィークリーニュース部だよ。

有佐　もういいわよ。とりあえず、記事でも書いたら？

八代　え、大きなスクープを持ってこい！？

有佐　言ってない。

八代　…よーしわかった！じゃあ僕、必ず大きなスクープ持ってくるから！…早速探してくる！有佐ちゃん、僕、絶対見つけてくるから！

そして再び上手へ走る八代。呆れたように有佐は下手へ。

小川、少しため息をつく。

その後ろで彩乃が訝しげに見ている。

小川　**あの忘れ得ぬ栄光をもう１度……この部の再建のために…いや、それだけじゃない、**夢の為に！夢であるお洒落な雑誌の記者になるために！…美容院とかに置いてあるタイプの雑誌の記者になるために！！今は精進の時。私

彩乃　が、この記事を書かなければいけないのだ！
あのー。

照明が全体的に明転。

小川　…え？はい？
彩乃　いや、はいじゃなくて…なんか一人でかなり喋っていたので…
小川　ああすいません。
彩乃　あと、計画表、どうも学校に置いてきたみたいで…
小川　ああ、無くても取材は出来ますので、大丈夫ですよ。
彩乃　すいません…

ダイニングテーブルを確認する彩乃。

彩乃　ああ、まだ何も出してなかったですね！すいません…
小川　ああ、いやお構いなく…
彩乃　レモンティー飲めますか？
小川　好物です。
彩乃　良かったです。

レモンティーのパックを取り出し、ポッドでお湯を注ぐ彩乃。

小川　先ほどは失礼しました…
彩乃　え？…ああ、さっきの独り言ですか？
小川　はい…私昔から多くて…
彩乃　ああ、なるほど。
小川　以前、私が駅前で友人と待ち合わせた時も哲学的なこと考えてたら言葉に出てたみたいで…
彩乃　駅前で。
小川　なんかいつの間にか周りに色んなものがお供えされてました…
彩乃　もう**お釈迦様**のエピソードじゃないですか…どうぞ。

彩乃、小川の前にカップを置く。
遅れて自分の前にも。

小川　ああ、ありがとうございます。

彩乃　…んで、アレですよね…？取材…
小川　ああ、そうです。今日はお願いします。
彩乃　ああ、お願いします。
小川　すいません。取材場所として、北川さんのお家を…
彩乃　ああ、いや日曜だと学校も開いてませんしね。私がこの日しか予定合わせれなかったので全然…
小川　ありがとうございます…それでは早速取材のほうをさせていただいてよろしいでしょうか？
彩乃　ああ、大丈夫ですよ。
小川　ええ、初めまして。わたくしウィークリーニュース部、2年の小川桜子と申します。
彩乃　1年の北川彩乃です。
小川　あとで写真も撮らせていただくんですけど…
彩乃　いや、もうぜんぜん！
小川　ありがとうございます。北川さんは今回、文化祭の実行委員会に入られたとのことで…
彩乃　はい。
小川　その動機と言いますか、なろうと思った理由は何なんでしょうか？
彩乃　そうですね、やっぱり私自身でその文化祭を盛り上げたいと思ったことと…あ、ちょっとそれ、考えまとめたやつあるんで、取り行ってきますね！

彩乃、下手へ。

小川　ああ、いやもう……取材が全然進まない。

下手から赤さん登場。

小川　ああ、北川さん。なんだ赤ちゃん…あれ？でも事前取材のときに弟がいるなんて。
赤さ　どうも、おはようございます。
小川　…？あれ？

周りを見渡す小川。

小川　北川さんとこのお父さん？お父様ですか？すいませんお邪魔してます！
赤さ　シロクマの毛は白くない。

小川　…ああ、赤ちゃん、こんなとこまで来たら…
赤さ　あれは、毛の中が空洞になっていて、光線が中で反射するからなんですね。
小川　…制服的に彩乃姉さんと同じ高校の方ですか？
あれ？

赤さんに耳を近づける、小川。

赤さ　いつも彩乃姉さんが…お世話になっております。
小川　ひえええ！！

小川、飛びあがって、腰を抜かしたまま後ずさり。

赤さ　**（小川のパンツの色）**

スカートの中を隠す小川。

小川　あなたは一体…

下手から姉妹登場。

夏葵　え、ベビーサークルにいないとしたら、もうわかんないよ？
彩乃　分かんないって…だからお姉ちゃんに任せたんでしょ？
夏葵　ごめん、爆睡しちゃっててて、でも間違えてこっちの方まで来てたらやばくない？ほら、取材。
彩乃　だから任せたんでしょ！もしばれたらやば…

一瞬止まる時間。

姉妹　あ、もう既にやばい状況になっている！

音楽が流れ出す。舞台は明転したまま。
そして事前収録の小川の声。**カメラで赤さんを撮る小川。**

小川　取材ノート。１６日。小川桜子。今日は北川家へと取材へ向かった。文化祭副実行委員長の話を聞こうとしていたのだが…いや、この出会いは私が口伝のみで伝えよう。…頭おかしい奴と、思われたくないから。

半分無理やり追い出される小川。
何やら台詞は言っているが、聞き取れない。
小川が舞台から消え、姉妹がどうする？みたいな話を始めたら暗転。
MEは消え、雨音に変わる。

彩乃　と、こういう事が1週間前にありまして…

明転する舞台。

彩乃　一応、**ウィークリーニュース部の人**には誰にも言わないでくださいって言ったんだけど…どうも近頃、ウィークリーニュース部の目線が痛いわけですよ。

光莉　なるほど。

チーンをする彩乃。

彩乃　**あ、ポエム。**

姉が飾っているポエムを見つける。

彩乃　1＋1は2だけれど、僕＋君は2じゃないよ…

そのポエムに首を傾げる。

彩乃　**なんじゃこれ。あたりまえのこと言ってるだけじゃん**…当たり前のこと言ってるだけじゃん。

光莉　**お線香あげさせてもらっていい？**

鈴を鳴らす光莉。

彩乃　**…ありがとう、光莉ちゃん。お線香あげてくれて。**

光莉　いや全然。

彩乃　お母さんも喜んでると思う。

ポエムを元の場所に置く彩乃。

彩乃　…どう思う？
光莉　…え？
彩乃　いや、このポエム。
光莉　ど、どう思うって？
彩乃　もしかして私の感性が鈍いから理解できないなのかなって。…どう思う？
意味わかる？
光莉　いや…そうだね…確かに僕と君を足すと２じゃないなあとは思うけど…

二人の間に流れる変な間。

彩乃　…ごめん、変な質問して。

再びおかしな間。

光莉　でもお姉さん医学部なんだね。
彩乃　え？ ああ、そうだね。
光莉　医学部って確かキャンパスが違うから…
彩乃　そうそう若干遠いんだよね。だから絶対１時間目は入れないって言ってた。よく知ってるね。
光莉　前、そこの大学病院に行ったから…
彩乃　ああ、なるほど。
光莉　いやあでもすごいね。
彩乃　え？
光莉　彩乃ちゃん、身内にお医者さんがいるってことでしょ？
彩乃　いや、お医者さんって、まだ１年生だから医者も何も…
光莉　医学部って本当に一番頭のいい学部でしょ？
彩乃　え？…ああ、まあ…
光莉　そっか。うちの学校からは出ないもんね、医学部なんて。彩乃ちゃんのお姉ちゃん、すごく頭が良…ってあれ？ 彩乃ちゃん？

完全に沈み切っている彩乃。

光莉　ど、どうしたの彩乃ちゃん。
彩乃　…なんでもない…なんでもないのよ、光莉ちゃん。

笑顔だが、涙目。

光莉　なんでもないことない感じだけど…

ブツブツと言う彩乃。しかし光莉には聞こえていない模様。

彩乃　ええ、確かにお姉ちゃんは頭いいですよ…お姉ちゃんはね…へへへ…

下手から父親が出てくる。

父親　おはよう。彩乃、ご飯は…

彩乃　自分で用意して。

父親　つ、冷たいな…お父さん何かした？何かしちゃったかな？…あ、彩乃の楽しみにしてた、**ハーゲンダッツ**食べたことかな？今度返すから…それとも彩乃の部屋に勝手に入って、爪切り借りたことかな…ちゃんと洗って帰したから…ああ、それとも！

彩乃　うるっさいなもう！

彩乃、激怒。

彩乃　別になんでもないから、早くご飯作って！

父親　完全に何かある感じだけどなあ…

台所へ向かい、コーンフレークを取り出す父親。

父親　あ、そうだ、彩乃。

彩乃　なに？

父親　夏葵はまだ寝てるの？

彩乃　…いや、もう病院に行った。

父親　あ、もうか。随分と早く起きれたな、夏葵。珍しい。

彩乃　だいぶ叩き起こしたけどね。光莉にも手伝ってもらって。

父親　そうなんだ。申し訳ないね、光莉ちゃん。

光莉　あ、いえそんなことは…

コーンフレークに牛乳をかける父親。

父親　で、どうだった。赤さんは。
彩乃　え？ ああ、今日雨だからなのか。赤さん、特にひどかったみたい。
父親　雨じゃない時もひどい時はあるみたいだけど…
光莉　何の話ですか？
父親　ああ、なんか最近、赤さん頭痛があるらしくて。それでいま、夏葵が病院に連れて行ってくれて来るんだけど…
光莉　彩乃ちゃんはついていかなくてよかったの？
彩乃　ああ、そのつもりだったんだけど、まあ光莉ちゃんの…ね？
光莉　…ごめんね、予定狂わしたみたいで。
彩乃　大丈夫大丈夫。私、病院のあの雰囲気苦手だから。
父親　本当に僕はついていかなくてよかったのかな。
彩乃　日曜くらい休めっていう夏葵姉ちゃんの優しさじゃない？ もしくは連れていくのが面倒だったか。
父親　面倒？
彩乃　お父さん、病院だと心配性を如何なく発揮するじゃん。
父親　いやそれは…
彩乃　前、私が風邪ひいたとき、オペしてください！ オペってください！ 病原菌を根こそぎオペってください！ とか言ってたし…
父親　どこから病気は来てるかわからないし…

彩乃、父親を無視して、光莉に話し始める。

彩乃　まあ、普通の頭痛なら気にしなくていいんだけど、ほら、うちの赤さんって…まあ、特殊じゃない。だから一応心配でね。喋るなとだけは言っておいたけど…
光莉　なるほど。
彩乃　生まれた時、産婦人科のベッドの上でも平気な顔して言葉喋るから、これじゃあいかんと思って、私が連れて帰ろうって…お医者さんの忠告無視して連れて帰ってきたから。変な病気じゃなきゃいいけど…にしたって片頭痛って…赤ちゃんなのに病気もおっさんっぽいよね。そこは家族でも思う。
父親　ウチに片頭痛もちなんか、ほかにいないのにな。ほら、あれって、結構遺伝するから。
彩乃　え？ そうなの。
光莉　あ、確かに。私も母親が片頭痛持ちで、私も持ってます。
彩乃　あ、そうなんだ。
父親　片頭痛の原因にもいろいろあるらしくてね。これはこの間見た雑誌の受け売

りだけど、頭の良い人間が多いという説もあるらしい。これはどう？光莉ちゃん。お母さん、頭良かったりする？

彩乃　いや質問…

光莉　いえ…そんなことは。ウチは母が、いや父も母も両方…

父親　え？

光莉　私も頭良くないですし、遺伝するのは本当かもしれませんけどね…

父親　いやそんな…

光莉　お嬢様お嬢様って言われて、勝手に頭も良いって言われますけど、中学校くらいから勉強も出来なくなって、それで…

父親　…あ、いやその…

光莉　ごめんなさい、勝手にしゃべっちゃって。母親からもいろいろ、言われるんですけどね。

父親　いやその…

彩乃　またやったよ。

父親　え？

彩乃　ナチュラル落ち込ませ。

父親　いや…

彩乃　この間、夏葵姉にもやってたよね？

父親　それは…

彩乃　今回に関しては私もむかつい…

グーパンを作っている彩乃。

父親　な、なんで！？

彩乃、父親に襲い掛かろうとする。

光莉にだけスポット。

光莉　ちゃんと勉強なさい。そうしたらいい高校に入っていい大学に入って……お母さんはね、あなたに苦しんでほしくないのよ。あなたはとても、いい子なんだから。

スポットが戻る。

彩乃、父親にほぼ襲い掛かった状態。

彩乃　え…光莉ちゃん、何か言った？

光莉　え、いや別に何も…
父親　タ、タシケテー…
光莉　うっ…

光莉、気分が悪そうに。

彩乃　あ、ちょ、大丈夫？ 気分悪い？
父親　あーこれはつわりかも。アワアワアワワワ。
彩乃　経験者でしょ！ 私たちが生まれてくるときの！
光莉　いやその…大丈夫です。

光莉、笑顔で。

彩乃　本当に？
光莉　あ、うん。
父親　よかった…まあ、つわりって言うのは、中の赤ちゃんが元気な証拠って言うし。
彩乃　え、そうなの？
父親　うん。彩乃の時なんてなあ、お腹の中で元気過ぎて、ひどいつわりに苦しんだもんだよ…
彩乃　いや、別にお父さんが経験したわけじゃないでしょ。

光莉、その話を聞いて、暗い表情。

彩乃　ねえ、光莉ちゃん！
光莉　あ、うん。

彩乃、目を細めて。

彩乃　…話聞いてた？
光莉　き、聞いてたよ！
彩乃　また暗い顔してたような気も…
光莉　いや、そんなことは…
父親　光莉ちゃん、おじさんともお話ししない？
彩乃　ああん？ また変な事聞くなよおっさん。あと笑顔と喋り出しが変態っぽい。
父親　光莉ちゃんは、好きな飲み物って何？ おじさんはね、白湯。光莉ちゃんは

？

光莉　私はそうですね…紅茶とかですかね。

父親　へーそうなんだー。

変な間。

父親　光莉ちゃんは～…

彩乃　光莉ちゃん、無理しなくていいよ？

電話の音が鳴る。

彩乃　あれ？お姉ちゃんだ。

父親　ん？夏葵が電話なんて珍しいな…

彩乃　もしもし？どうしたのお姉ちゃん？

夏葵　もしもし彩乃？

彩乃　え…なんで？…なんで泣いてるの？

父親　…？

夏葵　お医者さんから言われたんだけど……赤さん…もう死んじゃうって…

彩乃　…え。

舞台が暗転。

ゲームのプレイ音が聞こえる。

光莉　ああ…また負けちゃった。強いなあ赤さん。

赤さ　マリオカートで、最も大切なアイテム。それは、バナナの皮です。一見、偶発的な接触を目的としたアイテムにも思われますが、上位を走っている際には後ろを走るプレイヤーの前について、放出することにより、そのプレイヤーを葬り去ることも出来ますからな。

光莉　赤さん…

赤さ　はい。

光莉　本当に０歳？

赤さ　ええ、勿論。そして、もう１つ。光莉さんのプレイは少し上品すぎますぞ。もっと攻撃的でなければ。ひとつ雑学を申しますと、マリオカートという作品は、１９９２年の８月２７日、任天堂のスーパーファミコンで発売されたものが初出で…

頭を押さえる赤さん。

光莉　どうしたの？赤さん。また片頭痛？

赤さ　ああ、いえいえ。そうですが、原因がわかっているだけ、まだ気分は楽です。医師もまさか私が言葉が分かるとは思わなかったのでしょう。夏葵姐さんと共に思いっきり目の前で…告知されましたからね。

光莉　ああ…

赤さ　とりあえずバブーと返しておきました。

光莉　お医者さん、納得してた？

赤さ　一応は…イタタタ…

光莉　あ、何か冷やすもの！冷やすもの！

冷凍庫を開け、保冷パックを取り出す光莉。

赤さ　しかし…赤子であるがゆえに鎮痛剤などが服用できないのはつらいですな…

光莉　ああ、これ！これ、使って。

赤さんの前に2枚保冷パックを出す。

赤さ　ああ、ありがとうございます。…しかし光莉さん優しいですな…

赤さん、1枚受け取る。

赤さ　彩乃姉さん、夏葵姉さんと一緒にいるのも楽しいですが、光莉さんのような方がお姉さんでしたら、もっと楽しいんでしょうなあ…

光莉　そ、そんな赤さんたらもう…

クルっと周る拍子に保冷材で顔をぶっ叩かれる赤さん。故意ではない。

光莉　ああ！赤さん！大丈夫！？

赤さ　別の痛みが…

上手から彩乃登場。

彩乃　ただいま～

光莉　ああ、おかえり。今、赤さんとゲームを…

彩乃　相手してくれてありがとうね。で、今日のおかず一品でいい…ってどうしたの赤さん？

焦って近寄る彩乃。

光莉　あのその…頭が痛いって…
彩乃　え、本当に！？…大丈夫？大丈夫？赤さん。
赤さ　いえ、片頭痛よりも打撃が…
彩乃　打撃！？
赤さ　うう…

彩乃、保冷パックを踏む。

彩乃　冷たっ！…なにこれ…
光莉　ああ、それは…
彩乃　赤さん、何か欲しい物とかある？鎮痛剤は…あげれないけど…
赤さ　ああ、そ、それでしたら…
彩乃　何？
赤さ　（赤さんの欲しいもの）

少し間が開いて。

彩乃　（すごく優しく）赤さん…調子乗んな。
赤さ　あ、赤子なのでよくわかりませんな…
彩乃　…おねんね。
赤さ　了解しました。

彩乃、赤さんを連れていく。
彩乃、帰ってくる。

光莉　かなえてあげないの？
彩乃　かなえないよ。あれ、いっつも言ってるの。それが欲しいって言ってるとき、まあまあ余裕があるときだから。ボケ、ボケ。
光莉　な、なるほど…
彩乃　通常通りに接するのが一番の薬。光莉ちゃんが変に気を使ってたらどうしようかと思ってたけど、楽しそうにゲームやってたみたいで、よかった。光

莉ちゃんの方は大丈夫なの？体調とか。
光莉　え、うん。普通に安定してるよ。
彩乃　よかった…

時計の鐘が鳴る。時計は横向き。

彩乃　もう５時か…
光莉　…。

悲しく鳴り響き続ける時計。

彩乃　…光莉ちゃんちってどんな感じなの？
光莉　え？
彩乃　いや…家族とか。そういう話、今まで全然してこなかったから。
光莉　え…？
彩乃　ああごめん！もしかして聞いたらいけないことだった？これじゃあまるでウチの父さんだよね！？それなら全然…
光莉　ああ、いや別に！聞いたらいけないとかじゃなくて…特別面白くないよ？ってだけで…ほら学校で変な噂が飛び交ってるじゃない？
彩乃　変な噂？
光莉　ほら、私の実家は風呂が５つあって、トイレが８つ、部屋は２０部屋ある…みたいな…
彩乃　ああ、聞いたことある。さすがに信じてなかったけど。
光莉　**お風呂もトイレも１つだし、部屋だって３部屋くらい。私と両親の３人だしね。**
彩乃　ってことは…家の大きさ的にはウチと変わらない？
光莉　**そうだね。…むしろ、うちの方が小さいかも。お母さんが倹約家でね。すごくしっかりしてる人だから。**
彩乃　やっぱり育ちが…
光莉　**別に育ち良くはないよ。…実はすごく窮屈なんだよね。一人っ子って。別に何か言われてるわけじゃないんだけど…願いも期待も全部一手に私が受けなきゃいけない。**
彩乃　ああ…
光莉　学校でもお嬢様って言われて…持ち上げられて…家にいても、学校に行っても。居場所なんてなかった。…だからあの日。
彩乃　いいよ、光莉ちゃん。…もういいよ。

光莉　…それで、家から飛び出して、後はこの間彩乃ちゃんに話した通り。

光莉、自身の腹部を見遣る。

彩乃　…ごめん。今の時期に話す話じゃ完全に無かったね。

光莉　ああ、いいよいいよ。

彩乃　本当にごめん。

光莉　あんまり他の人になんか話せないことだしね。…彩乃ちゃんだし、大丈夫。

彩乃　…。

二人の間に流れる間。

光莉　彩乃ちゃんちはどうなの？

彩乃　え？

光莉　いや、3日間過ごしてみて…本当に明るい家族だなあって思ったんだけど。うらやましい。

彩乃　いやいや…うちも光莉ちゃん来てから変えてるよ…完全に猫かぶり。無理してる。なんとか**優しい家族**に見せようと。本来はもっと姉ちゃんは嫌な奴だし。お父さんは…あのままか。

光莉　それ、この間から言ってるね。そんなに感じないよ？本当に優しいし。

彩乃が少し落ち込んだ顔をする。

光莉　え、いや本当にしな…

彩乃　あ、いや。違う違う。光莉ちゃんの言葉じゃなくて。

光莉　え？…じゃあ一体。

彩乃　…ちょっとね。ずっと思ってること。思い出しただけ。

光莉　…ずっと思ってること？

彩乃、キッチンへ移動。

彩乃　普段は心の奥に隠してるんだけどね。…でもさやっぱ分かるんだよね。何日も…何週間も何カ月も何年も！…家族やってたらさ……赤さんはともかく、あの二人がおかしいって。…以来、ずっと無理してるって。やっぱり、少し無理して明るく振舞ってるって。

光莉　…。

彩乃　ちょっとだけ…昔の話していい？
光莉　え？
彩乃　お母さんがいた頃の…ついこの間…もう１年前の話。

舞台が暗転する。時計の針が戻る演出。
１年前の北川家。母親がキッチンで朝御飯の支度をしている。
「君が思い出になる前に」が流れている。
そこにパジャマ姿の彩乃が入ってくる。

彩乃　おはよう…
母親　あ、おはよう彩乃。
彩乃　また聞いてる。

調理の手を止め、会話を続けるためにカセットテープを切る母。
曲自体も停止。

母親　え？
彩乃　曲。曲。好きだね。
母親　（微笑む母親）夏葵は？
彩乃　**わからない。まだ寝てるんじゃない？**
母親　ったくあの子は…今日からまた朝課外始まったってのに…あ、そうだ彩乃。
彩乃　なに？
母親　受験する高校決めた？今日までなんでしょ？
彩乃　ああ、うん。結局筑紫北高校で進路希望出してくる。
母親　あら…じゃあ、彩乃がんばらなくちゃねえ。
彩乃　私の成績じゃ推薦も貰えないし、お姉ちゃんはあんな学校やめとけーって言ってたけど、やっぱり同じところ行きたいしね。
母親　夏葵と？
彩乃　うん。
母親　そう。

母親のお腹を見つめる彩乃。

母親　…何？急にどうしたの？
彩乃　…いや、出てないなあって。
母親　え？

彩乃　いや、お腹。出てないなあって。
母親　出るわけないでしょ。まだ４カ月しか経ってないのに。
彩乃　いつ頃出てくるの？お腹。
母親　そうね…夏葵の時は６カ月…彩乃の時が５カ月くらいかしら。
彩乃　ふーん。じゃあもうすぐか。
母親　うん…彩乃、いいからご飯食べちゃいなさい。遅れるわよ。
彩乃　はーい。

笑顔で彩乃、食卓に移動。
よれよれスーツの父親登場。食卓に入る前に一礼。

父親　おはようございます。
彩乃　あ、お父さんおはよう。
母親　あなた！

びっくりする父親。

母親　スーツをまたこんなによれよれにして…
父親　あああああ、ごめんなさい…

土下座をしようとする父親。それを征す母親。

母親　土下座はいいから。
父親　ああああああ。
彩乃　情けな。
母親　ほおら。

スーツをぴっしりさせる母親。ネクタイも結びなおす。
この間は無音。垣間見える夫婦愛。

母親　よし、これでOK。…今度からちゃんとハンガーに掛けること。
父親　あ、ありがとうママ。
母親　（少し笑って）**はいはい。**朝御飯、食べちゃって。
父親　あ、うん。

食卓につく父親。

偶然サラダを食べるタイミングが一緒になる。
ドレッシングを取り合う彩乃と父親。

彩乃　ちょ、貸してよ！時間ないんだから！
父親　これはお父さんが先に使おうと…
二人　うぬー！
母親　さて、あとはあのアホ長女ね。…夏葵―！

照明が食卓のテーブルのみに絞られ、事前収録の彩乃の音声が流れる。

彩乃　私たちはその時は４人家族だった。もうすぐ５人家族の。お父さんとお母さんとお姉ちゃんと私。何気なくて、でもとても幸せな生活を紡いでいた。そしてそれはずっと…変わらないものだと思っていた。

下手から突然人の倒れる音が聞こえる。
そちらの方向を見る２人。

彩乃　…え？
夏葵　だから起きるって…お母さん？お母さん！！
父親　ど、どうした！？
彩乃　お母さん！？

下手へ駆けていく２人。救急車の音。
再び事前収録の彩乃の声。

彩乃　１０月２８日、木曜日。お母さんが倒れた。…余命半年。自覚症状のない末期癌だった。

食卓のみにスポット。
カセットテープの前に彩乃。客側には背を向けた状態。
「君が思い出になる前に」のサビ前を聞いている。
上手から夏葵が帰ってくる。

夏葵　ただいま…彩乃、お母さんどうだった？
彩乃　…。

カセットテープを止める彩乃。

夏葵　…元気そうだった？
彩乃　…。

立ち去ろうとする夏葵。

彩乃　…元気そうだったよ。
夏葵　…そっか。それならよか…
彩乃　勉強？
夏葵　え？
彩乃　また、勉強してたの？
夏葵　え…あ、うん。そろそろセンターもあるし、二次試験だって今のうちに対策しておかないと…
彩乃　お母さんが大変なのに？
夏葵　え？
彩乃　お母さんが大変なのに、夏葵姉ちゃんは勉強するの？
夏葵　だって、受験が近いし、もうそろそろ仕上げないと…
彩乃　夏葵姉ちゃんは冷たいよ。
夏葵　え？
彩乃　冷たいからそんなことが言えるんだよ。
夏葵　冷たいって、どこが…
彩乃　冷たいじゃん。…お母さんが苦しんでるのに、受験受験って…
夏葵　受験とお母さんの病気は関係ないでしょ。あんたも受験が…
彩乃　関係あるよ。…関係あるよ…。もしかしたらお母さんと会えるの、もう何回もないかもしれないんだよ？それなのになんでそんなにのうのうと勉強してられるの？
夏葵　…。
彩乃　受験は確かに大切かもしれない。でも、それはお母さんより上なの？ここまで育ててくれた、お母さんより！私には到底理解…
夏葵　いい加減にして！

彩乃、見たことのない夏葵の怒気に驚く。

夏葵　いい加減にしてよ、彩乃…。私だって辛いんだよ？お母さんが死んじゃうこと。…でも、今はそうするしかないじゃない…

夏葵も涙を流しそうになっている。

夏葵　もしお母さんが死んだら、変わるのは私たち家族の人数だけじゃない。…お父さんはお父さん一人の収入で私たちを育てることになる…だったらなお私は、国立の医学部じゃないといけない…浪人だって厳しくなる！…そうしたら、私は夢を諦めなきゃいけなくなるかもしれない…でも、それがお母さんが望むことなの？私たちを本当に愛してくれた！！……お母さんが望むことなの？

夏葵、ゆっくりと彩乃に近づく。

夏葵　私は聖人君子じゃない…

夏葵、ゆっくりと首を横に振る。ここの”聖人君子”は皮肉表現。

夏葵　ごめんね、じゃあ私、部屋で勉強してくる。

後ろ髪をひかれつつも下手へはける夏葵。
カセットテープに向けて項垂れる彩乃。
ゆっくりと舞台が暗転する。
劇的な音楽が流れ始める。
彩乃の声は事前収録の音声（マイクでも可）。

彩乃　**お母さんは癌の手術をしなかった。**

再び、食卓のみ明転。
アイロンをかけるカッターシャツ姿の父親が映し出される。

彩乃　**当時、お腹の中にいた赤ちゃん。もとい、赤さんを救うため。抗がん剤治療すら行わなかったその体は次々と癌に蝕まれてゆき、お母さんはどんどん衰弱していった。**

炊飯器が鳴っているようで、様子を見に行く。原因がわからない模様。
ふとアイロンを見ると、焦げ始めてしまっている。
慌ててアイロンをあげる父親。電源を切る。

彩乃　医師の反対を押し切って、お母さんは赤ちゃんを産むことを決意した。周りの親戚や病院の人はそれを止めようとしたけど、私の家族はその考えを尊重した。

父親の携帯が鳴っている模様。父親はそれに出ると深刻な状況に。
「はい、わかりました」と口パク。
車の鍵などを持って、急いで出ようとする。
その道すがら、家族写真を見つめる父親。
それを鞄の中に入れ、上手へ走って出ていく。
再び暗転する舞台。

彩乃　その日が訪れたのは…本当に突然だった。

子供のクルクル回るやつの音が流れる。
非常にゆっくりと明転する舞台。

父親　ほら、すごいな。丹人、音楽が流れてるぞ。タンタンタン〜♪

お父さん、音楽に合わせて歌う。

夏葵　へたくそ。
父親　え、そうかな…
夏葵　ほーら赤さん。こっちで遊びましょうね〜

別のおもちゃを差し出す夏葵。
父親、彩乃が一人なのに気付く。立ち上がり、彩乃の方へ。
フォーカスは彩乃と父親に。

父親　どうした？ 彩乃。体調でも悪いのか？
彩乃　…いや、別に。
父親　彩乃、赤さんと遊ばないのか？ 色んなことに興味を持つからな、楽しいぞ。こういうなんでも興味を持つところは母さんに似てて……今日は学校行けそうか？

彩乃、何も反応しない。

夏葵　あ、お父さん。もう時間時間。

夏葵、時計がある方向を指さす。

父親　あ、そうだな。

夏葵　じゃあ私、先に車の鍵開けておくから。

父親　ああ、お願い。

夏葵　それじゃあね、赤さん、バイバーイ。

夏葵、上手へはける。

父親　彩乃…ゆっくりでいいからな。じゃあ、行ってくるよ。

父親、上手へ向かう。

彩乃　…いってらっしゃい。

父親、一旦立ち止まって振り返る。そのまま上手へ。

赤さん、ミルクを飲む。しかしそれを喉に詰まらせる。

彩乃、気付くとすぐに駆け寄り、対処。

赤さ　ありがとうございます。お姉さま。

彩乃　…うん。

赤さ　赤子は食べ物などを吐き戻す嚥下運動の力がまだ弱いですからな。どうしても詰まらせてしまいます。

彩乃、元いた場所に戻ろうとする。

赤さ　…彩乃お姉さん。

彩乃、ゆっくり振り向く。

彩乃　…なに？

赤さ　…彩乃お姉さんは…私の事がお嫌いですか？

彩乃、急に泣きそうな表情になり、駆け寄ると衝動的に赤さんを後ろから抱きしめる。

彩乃　そんなことない…そんなことないよ…

舞台は暗転。彩乃は赤さんを抱きしめたまま。
ゆっくりと明転する舞台。
二人とも神妙な表情をしている。

彩乃　…お父さんもお姉ちゃんも…きっとすごく悲しいはずだった。泣きたかったはずだった…でも、私がこれ以上落ち込まないように…明るく振舞って…失ったものを何時までも言ってても仕方ない…もう戻ってこない、そんなこと分かってるけど…

彩乃、ひとり、語り続ける。

彩乃　あのさ！…私さ、一生懸命、料理とか洗濯とかさ、頑張ってるんだよね。私が、私がお母さんの代わりになろうって！…お父さんは仕事が忙しいし、お姉ちゃんも大学、学部的にすごく大変だから…だから私が、私がお母さんの代わりになろうって…でもさ、すごく大変でさ！！…お母さん、こんな事よくやれてたなあ！って。料理、味付けで失敗したなあ…洗い物も大変だ…洗濯物、雨続きだけど乾くかなあ！…赤さんが生まれてきて…もう何カ月も経った…数えきれないほど思った。……もし、お母さんがここにいてくれたら…って。こんなこと家族の誰にも言えないけど……心地よすぎたんだよ。あの頃って。……もう何も失いたくない。

光莉、何か手を取ろうとするが、手がない。

光莉　ごめんね…何もしてあげられなくて。

彩乃、首を横に振る。
下手から赤さん登場。
彩乃、気分をむりやり一気に変える。

赤さ　いやはや。ただいま戻りました。

彩乃　あ、おはよう、赤さん。しっかり寝れた？

赤さ　赤子は寝るのが仕事ですからね。しっかりと仕事を熟して参りました。
彩乃　寝れたならよかった。
赤さ　涙が…
彩乃　ああごめんごめん。ここ最近この部屋掃除してないからさ、埃が目に…
赤さ　ああ、なるほど。と・こ・ろ・で・お二人は何の話をされてたんですか？
彩乃　え？
赤さ　いえ、起きた時点でかなり話し込まれてる様子でしたので。
彩乃　ああ…赤さんの話。
赤さ　わたくしの話？気になりますなあ…
彩乃　あ、もうこんな時間か。夕飯の準備しなきゃ。
光莉　あ、なにか手伝おうか？
彩乃　え？
光莉　いやずっと居候してて、働かないのも悪いから…
彩乃　えらいよね、光莉ちゃん。私、感動するよ…**まあでも仕事って言っても…**

彩乃、凄腕エージェントみたいな顔して光莉を見る。

彩乃　奥さん、いい仕事あったよ。仕事。
光莉　なに？なにすればいい？
彩乃　醤油買ってきてくれない？近くのスーパーでいいから。肉じゃが作るには量が足りないっぽいからさ。
光莉　ああ、分かった。じゃあ行ってくる。近くのスーパー…
彩乃　出て左の角曲がったところの…
赤さ　それでは、私も家族の一員。お手伝いとして、光莉さんについていきましょうかな。何かを忘れたときのリマインダーとして、機能しますよ。
彩乃　だから騒動になるっつってんだろうがよ、このクソガキが。
赤さ　…彩乃お姉さん。当たりが強くなってきましたな。
光莉　じゃあ行ってくる。
彩乃　うん、お願い。

食材を調理場に出す彩乃。
赤さん、手持ち無沙汰。

赤さ　彩乃お姉さま。
彩乃　何？赤さん。
赤さ　わたくしは何を…

彩乃　寝てて。
赤さ　え？
彩乃　それが一番手が患わないから。
赤さ　お言葉ですがお姉さま、赤子にも労働基準法はあります。既に眠るという仕事を８時間超えでやっております。これは非常に由々しき問題で…

彩乃、下から哺乳瓶を取り出し、赤さんの口にねじ込む。

彩乃　はい、残業代出すから。おねんねおねんね。
赤さ　はんと人肌でふね。（もごもご）

舞台の明かりが落ちる。
舞台中央”面”付近をスポット。
下手からやってくる光莉。
買い物をメモをみていると、上手からやってきた八代とぶつかる。

八代　おや。君は２年２組の水谷さん。ちょうどよかった。…あれ、しかしどうしてあなたが北川さんの家から？
光莉　あなたは？どうして私の名前を？
八代　おっと名乗るのが遅れました。わたくし、筑紫西高校ウィークリーニュース部のデスクを務めております、八代司と申します。
光莉　八代さん…？
八代　はい。そしてお名前の件ですが、知っていることに驚かれることに驚くと申しますか…
光莉　え？
八代　いえ…この校内では有名でしたからね、生粋のお嬢様として。おうちの方も拝見させていただきましたが、いや大きい。しかし意外だったのが執事などはいないのですね、いやはや漫画の読みすぎでしたでしょうか。
光莉　**まさか…つけて来て…**
八代　つけてきたとは人聞きの悪い。あくまでも隠密取材です。記事を見つけるため、真実を見つけるための。…まあ記事にもならない内容でしたので、ボツとさせていただきましたが。
光莉　用がないなら失礼しますけど。
八代　用ならあります。でもその前にひとつ聞きたいことが…どうしてあなたほどのお嬢様がうちの学校に…？お嬢様ともなれば、通う学校の相場はお金持ちの集まる私立学校か、この地域で一番との呼び声高い「北高」だと思うの

ですが…なぜ？

光莉　…。

八代　…そうですか。ではこちらはどうですか？

写真を見せる八代。

光莉　…こ、これは…

八代　北川家にいたなら、見覚えがおありでしょう。この赤子。どうもうちの所属記者によりますと、見た目は幼児でありながら、非常に高い頭脳を持ち、流暢に言葉をしゃべると…

光莉　知りません…私、用があるので…

上手に行こうとした光莉とぶつかる八代。

鞄の中身が散乱する。

八代　おっと…

八代、一緒に拾おうとする。

光莉　あ、大丈夫です！…すいません。一人で出来ますから。

荷物を集める光莉。

八代　しかし、本当に気になりますね。先ほどは解答いただけませんでしたが、高校のこと。うちのような地域３番手４番手のボンクラ校になぜあなたようなお嬢様が…これまでの社会の事例から考える限り、子育ての際のネグレクトだとか、親への反抗で勉強をしなかったとか…

光莉　しました！！…したんです！…私だって、一生懸命…

八代　…それはどういう…？

八代、少し訝しげに。

光莉は自らが大きな声をあげ、驚いている。

光莉　すいません…なんでもないです。…失礼します。

上手にはける光莉。

八代　また取材協力お願いします。

光莉が消えて少し間を空ける。

八代　あれはクロだな…

電話を取り出す八代。

八代　ああ、もしもし小川か。すぐに集合してくれ。お前の見つけたきた、あの家はクロだ。**詳しい事はLINEで連絡する。それじゃあ。**

携帯を切る八代。

光莉が鞄から落として回収できていなかったものを拾う八代。

すると、**母子手帳**が落ちているのを見つける。

八代　これは彼女の…なるほど…学校一のお嬢様が…ほう…学校のみんな。今週の記事は…面白くなりそうだよ。

不敵に笑う八代。舞台中心"面"照明が落ちる。

足音のSE。ゆっくりと何かが北川家に近づいてきているイメージ。

舞台が明転。

料理をしている彩乃。LINEを確認。

彩乃　よし。

火を消す彩乃。

出来た肉じゃがを味見。

彩乃　あ、美味しい。あっちの地域の醤油で作る肉じゃがもいいね。

光莉　ごめんね、普段この家で作ってる醤油じゃなくて。私知らなくて。

彩乃　全然大丈夫。指定しなかった私が悪いんだし、ほら、結果的に美味しくなってるし。

光莉　そっか。…ならよかった。

彩乃　あ、あとお父さんたち、もう帰ってくるって。

元気のない様子の光莉。
それに気づく彩乃。

彩乃　どうしたの光莉ちゃん…あ、もしかして…

しっかり間を取って、光莉をじっと見て。

彩乃　肉じゃが嫌い？
光莉　あ、いや…
彩乃　ごめん、カレーにすればよかったね。
光莉　そうじゃなくて…
彩乃　え。じゃあ…シチュー？
光莉　ご飯の事じゃなくて…ほら…うまく隠し通せなかったから…
彩乃　ああ、さっき言ってた、ウィークリーニュース部のこと？
光莉　うん。これで北川家に何かあったら申し訳ないって…
彩乃　ああ、大丈夫大丈夫。きっと何もないって。…それに何かあったとしても、それは光莉ちゃんのせいじゃないから。…それにしてもウィークリーニュース部すごいね。執念というか、なんというか…

家の玄関が開く音。

彩乃　帰ってきた帰ってきた。

上手から父親、登場。

父親　いやあ…今日は随分と疲れたよ。
彩乃　おかえり。
光莉　おかえりなさい。
父親　ああ、彩乃。光莉ちゃん。ただいま。
彩乃　お姉ちゃんは？

夏葵、上手から入ってくる。大量の資料を持っている。

夏葵　はい、今ここに。

資料をドサッと机の上に置く。

夏葵　あぁ～疲れた。
彩乃　何これ…資料の山…
夏葵　そう資料の山…教授から借りてきた、赤さんと同じ症例のカルテの写し。
光莉　カルテの写し？
夏葵　うん。

光莉と彩乃、資料を見始める。
めくるのに合わせ、夏葵は説明。

夏葵　世界で初めて報告されたのが、１９３９年の７月。場所はアメリカ・ウェストヴァージニア州。言葉を話す幼児が生まれたとの新聞記事にもなってる。１９４０年の５月、生後１０カ月で死亡。

彩乃、再びもう１ページめくる。

夏葵　２例目は遠く離れて、中東・イスラエル。神の子だとして、ごく一部の地域で崇拝対象になってたけど、生後８カ月で死亡。

彩乃、ページを何枚かパラパラとめくる。

夏葵　**小児性脳機能発達過多。異常なスピードで脳が発達していく病気。発達が早い分、機能がなくなるのも早い。**その後もカナダ、ベトナム、エストニア…世界で数人症例が上がってるけど…生後１年以内に…。でも、丹人をその数人と同じ病気だと判断できる医学的根拠も…まだない。…掻い摘んで言うと…成果無し。ほぼゼロ。
彩乃　…そっか。
父親　…まあ、お父さんが言える事じゃないけど、みんな元気出していこう…な。

北川家一同、頷く。
するとインターフォンが鳴る。

彩乃　あ、鳴ってる。
光莉　私出ようか？
彩乃　ああ、大丈夫大丈夫。にしたってこんな時間に誰…

光莉、インターフォンカメラをオンにする。

小川　夜分遅くに失礼いたします。ウィークリーニュース部の小川と申しますが…

彩乃　ウィ、ウィークリーニュース部だ！！

夏葵　え！？

父親　ええ！？

夏葵、インターフォンカメラを確認。

夏葵　これってこの間の…！

小川　すいません。御在宅ですよね？でしたら、簡単な取材ですのでお答え頂きたいと…

夏葵　まずい…

彩乃　と、とりあえず玄関に…

彩乃、玄関（上手）へ変な動きをしながら移動。

光莉　あ、そ、その前に赤さんを隠さないと！

赤さん、台所の下から登場。

赤さ　お呼びですかな？

光莉　うわあ！赤さん！なんでそんなところに…！

赤さ　赤子の気まぐれです。

光莉　気まぐれ！？

赤さ　状況はすべて理解しました。

光莉　え、もう！？

赤さ　はい。一応知能はありますので。つまりあれですね。私がその小川さんという方に挨拶すれば良いんですね。

光莉　全然わかってなかった！

夏葵　そんなことしたらあんた、警察か何か呼ばれて、最悪解剖されちゃうよ？

赤さ　ハハハ…解剖は嫌ですねえ。

光莉　なんでそんな冷静でいられるの！？

父親　あわわ、あわ。いったいどうすれば…

遠くで網戸の開く音。

下手から八代が入ってくる。

八代　こんばんはみなさん。

光莉、赤さんに肉じゃがを煮込むのに使った鍋を被せる。

光莉　ごめん、赤さん。

夏葵　ちょ、あんた…

八代　ほお…小川の言っていた通り、品のあるいい家ですねえ。

小川、上手から登場。

遅れて彩乃も上手から登場。

彩乃　え、誰？

八代　ああ、どうも。紹介が遅れました。私は筑紫西高校ウィークリーニュース部のデスクを務めております、八代と申します。

彩乃　**いや、誰。**

八代　おっと…水谷さんには、説明の必要はありませんでしたね。

父親　水谷？

光莉　私の上の名前です。

彩乃　一体、どこから…

八代　ああ、和室の網戸。開いてましたよ。この季節は空き巣の多い時期ですし、気を付けないと。

夏葵　何が『空き巣に気を付けて』よ。ひとんちに不法侵入して、あんたたちがやってること、空き巣みたいなもんじゃない。

八代　おっと。私たちは違いますよ？ 私たちはジャーナリスト。あくまでも記事の為に来ているだけですから。

小川　デスク、早く済ませましょう。

八代　そうだな。保証されたジャーナリズム！！市民たちに事実を伝えるためには！…多少の脱法行為は仕方がないことだと考えています。

夏葵　あんた、あんまりいい加減な事言ってると…

八代　…というわけで…出してもらいましょうか。

夏葵　…え？

八代　しらばっくれないでください。赤子ですよ。赤子。言葉を喋るという…

夏葵　そ、そそそそっそそそそそそおそそそそそそそそそそそそそおっそおそそそそそんなのいないですよ。

八代　…長かったですねえ。…嘘ですよね？
夏葵　嘘じゃない！
八代　あなたはいないと嘘をついている。
夏葵　嘘じゃない！！
八代　嘘だ。
夏葵　嘘じゃない！
八代　嘘だ。
夏葵　嘘じゃない！
八代　嘘じゃない。
夏葵　嘘だ！

夏葵、「あ、言っちまった」みたいな表情。

彩乃　なにやってんの！お姉ちゃん！
父親　正直者だなあ。良い育てかたをした…
彩乃　感慨に浸るな！
八代　いるということでよろしいですか？
夏葵　いやだから…
八代　うちの部員が見たと言ってるんです。
彩乃　小川さん、言わないでって…
小川　これもうちの部の為です。
彩乃　部のため？
八代　さあどこだ…どこにいるんだ…

八代、一旦どう考えても違和感のある鍋の前で止まる。
しかし気づかない。

八代　どこだーどこだー

安心する一家。

光莉　もうやめてください！ウィークリーニュース部の方たち！私、ここにしばらくいますけど、全然、そんなの見てないです。
彩乃　光莉ちゃん…
八代　おーっと。…あなたまでシラを切りますか。
光莉　…シラなんかじゃないです…本当です。

八代　そうですか…では…こちらの取材に切り替えましょうかね。
光莉　こちら？

八代、産婦人科のカードを取り出す。

彩乃　あ…
父親　そ、それは光莉ちゃんの…
光莉　…そ、それは…。
八代　産婦人科のカードです。しかもなぜか少し遠い地域。産婦人科の「産科」の方に丸が付いている。…それに、なぜでしょう。あなたの名前が書いてある。これは一体…どういうことでしょうねえ。
彩乃　ちょ、ちょっと待ちなさいよ。
八代　はい。
彩乃　そんなこと！聞いていいと思ってるの？プライバシーの侵害よ！
八代　ええ、確かに侵害しています…しかし。そんなものは関係ありません。
彩乃　ど、どういうこと？
八代　これが例えば名も知れぬ一般生徒であれば！！…プライバシーだなんだと市民も騒ぎ、我がウィークリーニュース部の信頼も地へと落ちてしまう。だがしかし！学校一のお嬢様として、多くの生徒から『清楚』なイメージで認識されているあなたが妊娠しているというニュースが出れば！…その報道への衝撃のほうが強くなり、私たちへの批判は自ずと出ない。…大衆・そして報道とは元来、そういうものですよ。
彩乃　そ、そんな…
八代　**さあ、水谷さん。話してください。あなたは親からの肉体的・もしくは心理的な虐待を受け、その反抗から、男性とのそういった関係を持ち、そしてその子供堕ろしてしまおうとしている。…違いますか？**

光莉、答えあぐねいている。

赤さ　もうやめましょう。

鍋を自ら取り払う赤さん。

赤さ　もうやめましょう、お二方。…肉じゃがになった気分でした。
八代　ま、まさかそんなところにいたのか。
彩乃　**ずっといたよ。**

八代　小川！
小川　はい！

カメラを撮る小川。
光莉、前に出て制そうとする。
しかし赤さんはノリノリで色んなポーズ。

光莉　ちょっと写真は…どうしてノリノリなの！？
赤さ　いえ、折角でしたら美しく写ろうと思いまして。
小川　赤子の写真、撮れました。
八代　よし次はこいつの写真を…

光莉を指さす八代。しかし、写真を撮るのを止めさせる赤さん。

赤さ　私の写真が撮れれば、それでいいのではなかったのですか？
八代　…はて、何のことやら。…大物の記事を狙いに行ったら、その道すがら、もっと面白い記事を見つけた…逃すわけにはいかないだろう？
赤さ　光莉さんは嫌がっておられますが。
八代　そりゃあ誰だって自分を記事にされるのは嫌がります、それも分かっています。我々だって心苦しい。…しかしですね、それだったら何が伝わりますか？…真実をこのペンで…私が大衆に伝えなければならないんだ！
夏葵　ちょっとあんたら…
赤さ　少し！！…少しだけ待ってください。…ウィークリーニュース部の方の…デスクさんの意見は…非常によくわかりました…その上でのお願いですが…私の事はいくら記事にしても構いませんので、光莉さんの事は勘弁して頂けませんか…
八代　え？
夏葵　何言ってるの？あんた。
赤さ　まずすべての根源は私です。私の存在が発見されたことにより、このような騒動になっていますから。それに…皆様に、このような事を言うのは門違いかもしれませんが…わたくしも、長い命ではなくてですね…
彩乃　赤さん…
赤さ　同情を買うわけではないのですが…しかし、光莉さんには未来がある。**これは雑学ですが、そういった過剰な報道により、名誉が傷つけられ、後の進学や就職に影響するといった前例は多くはあります。…つまり、もしかしたらその記事で、その未来が閉ざされるのではないか…と私は考えています。**

八代　まあ…その可能性はあるだろう。

赤さ　私は赤子なのでよくわかりません…先人に対してこのようなことを言うのは失礼かもしれませんが……私のことなら記事にして構いません。どうせ後数か月のものですし、記事にされても特別痛くはないですから…ですから、私だけを…そして光莉さんの事は…

夏葵　**ふざけんじゃねえよ…**

光莉　**…え？**

夏葵　**ふざけんじゃねえよ！！**どんな思いで…どんな思いでお母さんがあんたのこと産んだと思ってんだよ！

全員神妙な顔になる。

夏葵　お母さんはな…あんたの命を奪いたくないって…自分の命を捧げてまで、産んだんだぞ…私たちも…お母さんの意思を汲んで…あんたのこと待ってたんだよ…そしたらなんだよ…もう長くない命って…ずっと…ずっと家族の筈じゃねえのかよ！！

少し、落ち着いて。

夏葵　私なら記事にされても特別痛くない？…じゃあこれからの…これからの私たちの生活はどうなるの？好奇な目線に晒されて、日常なんて戻ってこない…それなのに…そんな勝手な事言うなよ！！

間をおいて、父親が登場。

父親　…失礼します。…こんなところで言う話でもないのかもしれませんが…もう少しだけ家族でいさせていただけませんか。夏葵・彩乃・丹人、そして私。この面々でいれる時間は…正直、長くはありません。…だから、勝手なお願いかもしれませんが、もう少しだけ、この時間を…私たちに過ごさせてくれませんか？…驚かせてしまってすみません。しかし、彼女もそういう事を言いたかったのだと思います。

彩乃　**お父さん…**

網戸の開く音。

有佐、下手から登場。

有佐　おっと、あんたたちここにいたのね。
八代　あ、有佐さん！
有佐　私に隠してる感じだったから、またよからぬ取材でもしてると思ったらやっぱり…
八代　あれ！？なんで有佐さんが…俺は確か電話した後に、小川の個人LINEに場所を…

携帯を確認する八代。

八代　あー！部の全体LINEに送ってる！！
有佐　そしたらこんな事してたか…ったく…迷惑かけるなって言っただろ？
八代　いや、僕はあくまでも**すごいスクープを…**

有佐、八代を隅に追い込み、壁ドン。

八代　す、す、すいません…

殴ろうとする有佐。

彩乃　ああ、アリサ？さん？
有佐　合ってます。
彩乃　暴力は…その…一応迷惑は…かけられましたけど…とりあえず赤さんの事と光莉ちゃんのこと…これさえ記事にしていただかなければ、別に私たちは…

有佐、ちょっとして八代を解放。
八代、へたり込む。

有佐　寛大な判断、感謝します。…よし、行くよ。

帰ろうとする3人。

有佐　…おい。
八代　はい。
有佐　迷惑かけたんだから…ちゃんと謝らねえと。
八代　ああ…

八代、家族に近づく。

八代　今回は行き過ぎた取材をしてしまい、大変申し訳ありませんでした…

頭を下げる八代。

八代　それでは…また（かっこつけて）

彩乃　うるせえよ。

八代、ビンタされる。

八代　あ！暴力！暴力暴力！小川も見たよな？有佐さんも見ましたよね！

？

有佐、八代に腹パン。**呻く八代。**

有佐　今回はうちの部員がご迷惑をおかけしました。この事に関しては、こいつに、絶対に記事にさせませんので。…それではどうぞご家族お幸せに。…おい、八代、私が惚れたのは…そんなとこじゃねえっての。

有佐、八代を物のように抱えて、外へ。

父親　つ、強い…

彩乃　最後、のろけていった…

そして小川も謝罪。

小川　今回は行き過ぎた取材、大変申し訳ありませんでした。…そして…

小川、カメラからフィルムを乱暴に抜き取る。

小川　こちらの方はお渡ししておきます。本当に申し訳ありませんでした。

取材メモも破る。

小川　こんなことしても、**ウチの部は変わりませんから。**

少し歩いて、彩乃の方を向く小川。

小川　彩乃さん。

彩乃、下の名前で呼ばれたのにびっくり。

彩乃　…はい。

小川　約束破って…ごめんなさい。また文化祭の時、よろしくお願いします。…うちの部も一生懸命盛り上げますから。

彩乃　…はい、わかりました。…お願いします。

上手から聞こえる有佐の声。

有佐　小川、戻るよ。

小川　はい！…それではお姉さんと…弟さんとお幸せに。

彩乃　え…

小川、ダッシュで帰宅。

呆気にとられる一同。父親「僕は？」みたいな顔をしている。

赤さん、夏葵の方を見て。

赤さ　…夏葵姉さん。先ほどは、あのようなことを言って申し訳ない。あれは…非常に自己中心的な意見でした。

光莉　いや、だって私を守ろうと…

夏葵　そんな落ち込むなって。…あの事だけわかってくれたら、私…それでいいから。光莉ちゃんを守ろうとしたんでしょ？男らしい男らしい。

父親　まさか…夏葵が他人に対してあんなに切れるとはな。

夏葵　おい、掘り返すな。

彩乃　確かに。キレるって言っても、大概私に対してぐらいだしね。

時計の音が鳴る。

彩乃　ぎょ！もうとっくに夜じゃん！！ほら、早く食べて！もう冷えてるどころの騒ぎじゃないから！

夏葵　ああ…

夏葵と父親、食べ始める。
夏葵、父親の牛肉を奪おうとしたり…
（照れ隠しなのか）相変わらずちょっかい。
彩乃は時計を見た後、日めくりカレンダーを見る。
光莉はいったん座るが、飲み物を取りに戻る。

光莉　飲み物取っていい？
彩乃　ああ、全然。
光莉　…どうしたの？
彩乃　…いや、この家族でいれるのも…あと数か月かって思って。
光莉　ああ…
彩乃　悲しいけどね…でも…そのままいたら、絶対後で後悔するから。
光莉　…あと、数か月…

暗転する舞台。時の経過を現わすMEが流れる。
長めに流した後、エピローグに入る。
明転する舞台。
洗濯物を畳んでいる光莉。食器を洗っている彩乃。

光莉　よし…
彩乃　全部終わった？
光莉　うん。ありがとう、彩乃ちゃん。この1週間、服とか貸してくれて。
彩乃　大丈夫大丈夫…入ってよかった…

外で鳥が鳴いている。

彩乃　いやあーいい天気になったねえ。この間の雨が嘘みたい。…おお、雑草が大分生えてる。こりゃ刈らなきゃだな。
光莉　雨降って地固まる…てやつ？
彩乃　え……使いどころちょっと違わない？
光莉　え、そうかな。
彩乃　てんねーん。
光莉　違うってばー！

少し笑いあう二人。

彩乃　いやあでも…この間のは大騒動だったねえ。
光莉　この間？
彩乃　ほら、ウィークリーニュース部の。
光莉　ああ。
彩乃　あれが滞在中一番の騒動じゃない？…あれ以来、たまにいじってるんだよね。お姉ちゃん。身内ながらかっこよかったなあ。って。
光莉　ああ、確かに。すごくかっこよかったね。照れるんだ。
彩乃　彼女、そういうとこ褒められるの、慣れてないから。かわいいでしょ。
光莉　ははは。…あと、お父さんも。最後に出てきて、それも…
彩乃　うーん。あれはそうかなあ…あの時はかっこよかったけど、思うに、言いとこどりしてない？
光莉　え？
彩乃　いや、最後の決め台詞みたいな感じで言ってたなー。って。あれ？私曲がってるなあ。
光莉　まあ…それは。

少し笑う二人。そして静かになって。

彩乃　でもね、あんまり大きな声では言えないよ？
光莉　何？
彩乃　…いい家族ではあるよね。私たち。
光莉　ふーん。
彩乃　ふーんって何よ。ふーんって。
光莉　いやいや…
彩乃　馬鹿にしてるでしょ。馬鹿に。
光莉　してないしてない！してないって。
彩乃　本当に？
光莉　…。
彩乃　…え…無回答？
光莉　ああ、いやごめん、そうじゃなくて。
彩乃　まだ悩んでるの？
光莉　…いや、もう悩んでは…でもやっぱり少し怖いんだよね。
彩乃　怖い…まあそうだよね。鼻からスイカっていうくらいだし。あの交通系電子マネーの方だったらいいけど…

彩乃、鼻から何か出す描写。
光莉はそれを見て少し笑って。

光莉　それもだけどね。…お父さんとお母さんに説明すること。
彩乃　ああ…やっぱりそこか。

光莉、少しまだ落ち込んだ表情。
彩乃はそれを見ると意を決したような顔をする。
そしてデッキからカセットを取り出す。

光莉　なにしてるの？
彩乃　いや…これ。

カセットテープを取り出す彩乃。光莉に手渡す。

光莉　これって…
彩乃　お母さんの好きだったカセット。これ、あげる。
光莉　え…
彩乃　ずっと入れっぱにしてたから、再生できるかどうか分からないけど。
光莉　そんな、ダメだよ。こんな大切なもの…
彩乃　大丈夫。…私はもう大丈夫だから…今度聞いてみて。

彩乃、光莉を見つめたあと、少し笑って。

彩乃　それに…きっと大丈夫だよ。光莉ちゃんのお父さんとお母さん。…家族だもん。光莉ちゃんの。

光莉をじっと見つめる彩乃。そのあと少し笑って。

彩乃　…お姉ちゃんじゃないから、あんまりうまいことは言えないけどねー。

夏葵と赤さん、下手から登場。

夏葵　お、もう出るの？
彩乃　おお、噂をすれば。
夏葵　噂ってなんの噂よ。

彩乃　強いて言えばポエム。
光莉　あ、おはようございます。
夏葵　おっはよー。…光莉ちゃん、いろいろあったけど、１週間お疲れ様。
光莉　あ、ありがとうございます。
夏葵　ほら、赤さんも。
赤さ　お疲れ様です。

大きく欠伸をする夏葵。
彩乃と赤さんは何やら遊びだす。

夏葵　すぐに出るの？
光莉　あ、はい。
夏葵　そっか。いやあでも…この間のは大騒動だったねえ。
光莉　この間？
夏葵　ほら、ウィークリーニュース部の。
光莉　ああ。
夏葵　あれが滞在中一番の騒動じゃない？あと、お父さんも。最後に出てきて、やたらカッコつけてただけで…
彩乃　お姉ちゃんお姉ちゃん。そのくだりやった。
夏葵　やったって何よ。
彩乃　全くの再放送してるから。
夏葵　…光莉ちゃん。
光莉　はい。
夏葵　楽しかった？
光莉　…はい。
夏葵　それならよかった。ウエーイ。

よく男子高校生のよくやるノリ。
途中で失敗する。

彩乃　なんで出来ないのやっちゃうのよ。
夏葵　頑張って！
光莉　はい！！

カメラのシャッター音。外の窓には八代。

赤さ　おっと。

すかさず鍋を被る赤さん。

彩乃　あれって、ウィークリーニュース部の！

夏葵　また凝りも無く赤さんを…

八代　お疲れ様です。北川家のみなさん。しかし、ちっちっちっ。今回は違いますよ。今回の特集はこれだ！

見出しを見せる八代。

姉妹　筑紫西高校の美人姉妹！彩乃と夏葵！？

八代　やっぱり美女記事は特に男性購読者から喜ばれるんですよ！！**文化祭実行委員会の中に美女！しかもその姉も、美女！いやあ素晴らしい！**…というわけで。

再びシャッターを焚く八代。

彩乃と夏葵、顔を隠そうと必死。

八代　よーし撮れた撮れた！

彩乃　美人姉妹って…**お姉ちゃんに至っては西高出身ですらないし。**

夏葵　**いやあ照れるなあ。**

彩乃　**照れてる場合か！**

八代　よーしこれを現像して、さっそく記事だ！！

八代、上手側にかける。**まだ照れている夏葵。**

彩乃　**あ、こら待てこのクソ記者！！…ちょっといつまで照れてんの！！！**

夏葵　**わけわかんない記事になっちゃうんだよ、私たち！**

彩乃　**ああ、そうだった。**

光莉　ごめん、光莉ちゃん、赤さんよろしく！！

彩乃　ああ…

立件じゃ、こらー！！

上手方向へ走る夏葵と彩乃。

光莉　大変だな、本当に。

鍋を被ったままの赤さんに気付く。

光莉　ああ、赤さん、多分もう大丈夫だよ。

鍋を外す赤さん。

赤さ　いやはや…毎度こうとなると、少し気が滅入りますね。

光莉　赤さん…

赤さ　今日はキーマカレーになった気分でした。

光莉　赤さんもありがとうね。１週間も。

赤さ　いえいえ、私も特に何も出来ませんで。

光莉　私、兄弟いないからさ、弟になったみたいで。

赤さ　いやはやそうですか…それではまた遊びに来られた時は…こうお呼びしましょう。…お姉さん。

赤さん、やたら渋い声で。

それに対して、光莉も笑って。

光莉　じゃあ私も…弟！

二人で笑いあう。

赤さ　いやはや面白い。こういった小さな話題で笑えるというのは幸せなことですな。

光莉　そうだね。

赤さ　笑いというのは、体調すら変えますからな。

光莉　そうなんだ。

赤さ　私たちが笑うと、免疫のコントロール機能をつかさどっている間脳に興奮が伝わり、免疫能力を活性化させるんですな。これも雑学です。

光莉　…ねえ、赤さん。最後にもう１つだけ質問していい？

赤さ　…どうされましたか？

光莉、少しお腹を見る。

光莉　私さ…この子、幸せに出来るかな？
赤さ　はい？
光莉　いや、この子が幸せになれるかどうか…赤さんがこの子と一番同世代だし…何か分かるかなあって…。
赤さ　同世代…面白い表現ですね。…しかし申し訳ありませんが、私には何も分かりません。…人生経験も浅い、赤子ですので。

少し見つめあう二人。そしてやがて笑い出す光莉。

光莉　そりゃあそっか。

また笑い出す光莉。その後、追従して赤さんも笑う。
笑い声は音楽にかき消されていく。
音楽がフェードアウト。
半年後の北川家。慌ただしい朝。
トースターでパンが焼ける音がする。
そして明転。
彩乃が回想の母のように、無理なく振舞っている。
明るめのMEが流れている。
蛇口を閉める音。
彩乃、新聞を見ながらパンを食べている父親を見遣る。
尚、格好は前口上と同一。

彩乃　何か面白い記事でもあった？
父親　え？…ああ、経済新聞だからね。特別面白い記事は無いけれど、興味深い記事ならあるよ。いっぱいね。
彩乃　ふーん。
父親　彩乃、来年大学受験だろ？
彩乃　**まあ、そうだけど。**
父親　だったら社会情勢は抑えておかないといけないよ。数学や英語ばっかりやってるようじゃ、最近の大学はダメらしい。

父親、新聞を畳み、食卓から立ち上がる。

彩乃　進路指導の先生みたいなこと言わないでよ。…あ、ちょっと待って。
父親　え？

彩乃　ネクタイ。
父親　ああ…

ネクタイを結びなおす彩乃。小声で「結びなおすよ？」。

彩乃　これでよし。いってら…ってなにその顔。
父親　え？ああ、いや。
彩乃　あれ、もしかしてお父さん…
父親　ん？
彩乃　…照れてる？

父親、明らかに動揺。

父親　いや、照れてなんかないぞ？お父さん照れてなんか…
彩乃　ねえ、照れてるよね？

徐々に距離を詰める彩乃。

父親　いや、その…お父さん時間無いから、いってくる。
彩乃　ねえってば。
父親　えーっと定期定期…あったあった。
彩乃　おいこら。
父親　それじゃあ…

一旦リビングの方を向く。

父親　行ってまいります。
彩乃　（ため息）いってらっしゃい。
父親　さあ、今日もがんばるぞ～

上手へとはける父親。

夏葵　あー眠い。
彩乃　おお、早い。
夏葵　昨日レポートすっ飛ばして寝ちゃったからなー。今日がやばい。パン。

手を差し出す夏葵。それをはたく彩乃。

彩乃　自分で。
夏葵　なんだよ、ケチー。
彩乃　ケチで結構。

仏壇を拝む彩乃。夏葵は牛乳を冷蔵庫から取り出し飲む。
仏壇に供えられているポエムに気づく。

彩乃　『離れていても、家族は家族。フォーエバー』。ねえ、お姉ちゃん…

彩乃、感動した顔で。

夏葵　ん？どうしたの？
彩乃　このポエムさ…最後のフォーエバーがいらないかなあ…
夏葵　褒めろよ。
彩乃　いいこと書くじゃん。アホ姉。

一度息をつく彩乃。何かを飲み込む。
すると電話がかかってくる。

彩乃　あれ？お父さん？さっき出たばっかりなのに…忘れ物かな？
夏葵　定期じゃない？
彩乃　いや定期はだって…もしもし？
父親　ああ、もしもし彩乃か？

父親、妙に落ち着いた声。

彩乃　うんそうだけど…どうしたの？忘れ物？
父親　ああいや…そうじゃなくて…
夏葵　もう一杯のも。
彩乃　…何？
父親　お父さん、間違われちゃった。
彩乃　え？何に？
父親　その…痴漢。

驚いて飲み物を吐き出す夏葵。

二人　痴漢！？

騒がしいMEが流れ出す。

彩乃　え！？ちょ…え！？

夏葵、彩乃から携帯を取り上げる。

夏葵　何したの！あんた一体なにしたの！

父親　いや何も…

夏葵　とりあえずすぐに帰ってき…

父親　ああそれは…お父さん、もう駅員室だし…あ、ちょっと被害者の方が…また電話する…

電話が切れる。

夏葵　ちょ、お父さん？お父さーん！

彩乃　え、切れたの！？

夏葵　あいつ切りあがった！

彩乃　ちょ、どうすんの！？

夏葵　どうしたもこうしたも！

荷物を持つ夏葵。

夏葵　駅行くわよ！駅！

彩乃　え、でもどこか…

夏葵　さっき出たばっかでしょ？じゃあ、最寄よ最寄。最寄り駅！！

彩乃　ああ、なるほど！え、てことは電車に乗った瞬間、痴漢と叫ばれ…

夏葵　いいから行くわよ！一家の大黒柱が捕まったら！…互いに中退ですよ？

彩乃　…それはまずい！！急げ急げ！

夏葵　そうよ急げ急げ！私、先に行ってるから！！

夏葵、上手へ走る。

急ごうとする彩乃にスポットが当たる。

彩乃　さて、みなさん！！今回はこういうオチになってしまいました！！…ようやくひと段落したから話したのに…まさかうちから性犯罪者が出るなんて…とりあえずまだまだ言いたいことはあるんですけど、とりあえず今日はこれで！！

上手へ走ろうとする彩乃。そこに電話がかかってくる。

彩乃　もしもし光莉ちゃん!? どうしたの？…え。…そうなんだおめでとう！！！…ってごめん、すごくおめでとう！すごくおめでとうなんだけど！…私たちの今後がかかってる問題があるからちょっと切るね！ごめんね！

電話を切る。

彩乃　それではみなさん、またどこかでお会いしましょう！！…バイバーイ！！

ダッシュで上手へ走る彩乃。
誰もいなく舞台。
MEが大きくなると同時にスポットもゆっくりと消えていく。
そのまま暗転で終演。カーテンコール。